

令和6年度原子力国民理解促進広聴・広報等事業
電源立地地域及び電力消費地向け広報等事業
施策効果等についての調査ご報告書

株式会社読売広告社

2025/03/31

■ 調査概要

□ 調査目的

柏崎刈羽原子力発電所再稼働における効果測定
※地域：新潟県

□ 調査方法

インターネット調査

□ 調査仕様

対象：15歳～89歳/男女
エリア：新潟県

□ 実施期間

2025/03/06-03/10

□ サンプル数/対象者条件

576サンプル（回収目標：600サンプル）

- ・立地地域：柏崎市、刈羽村
- ・30km圏：上越市、十日町市、小千谷市、長岡市、出雲崎町、見附市、燕市
- ・その他新潟：上記以外の新潟県全域

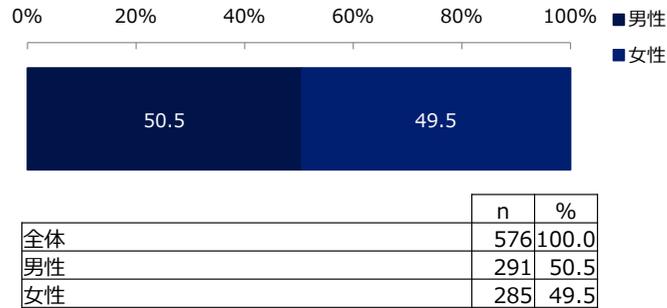
| 年齢 | 性別 | 立地地域 | 30km圏 | その他新潟 | 合計 |
|---------|----|------|-------|-------|-----|
| 15～34歳 | 男性 | 11 | 40 | 40 | 100 |
| | 女性 | 5 | 40 | 40 | 100 |
| 35～59歳 | 男性 | 20 | 40 | 40 | 100 |
| | 女性 | 20 | 40 | 40 | 100 |
| 60歳～89歳 | 男性 | 20 | 40 | 40 | 100 |
| | 女性 | 20 | 40 | 40 | 100 |
| 合計 | | 96 | 240 | 240 | 576 |

□ 設問数/設問一覧

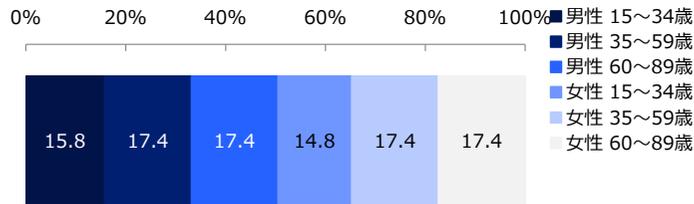
- Q1 2024年11月～2025年2月にわたり、以下のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。
あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。
- Q2 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について、あなたはどのように考えますか。
- Q3 前問で選んだあなたの考えの理由として、当てはまるものを以下からすべてお選びください。
- Q4 前問で選んだあなたの考えの理由として、当てはまるものを以下からすべてお選びください。
- Q5 原子力発電や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に対するあなたの考えは、どういった情報をもとになっていますか。
- Q6 Q1で「見たことがある」と答えたメディアについてお伺いします。
その広告を見たことで、原子力発電や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に対する、あなたの考えは変化しましたか。

■ 回答者属性

□ 性別

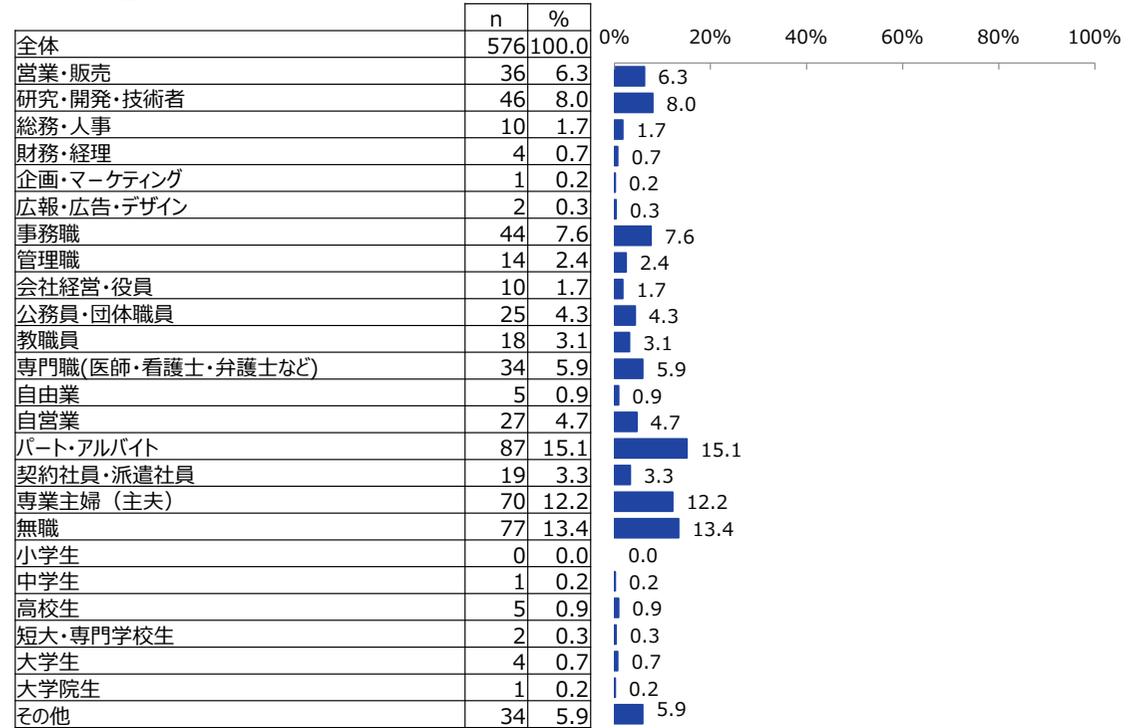


□ 性年代

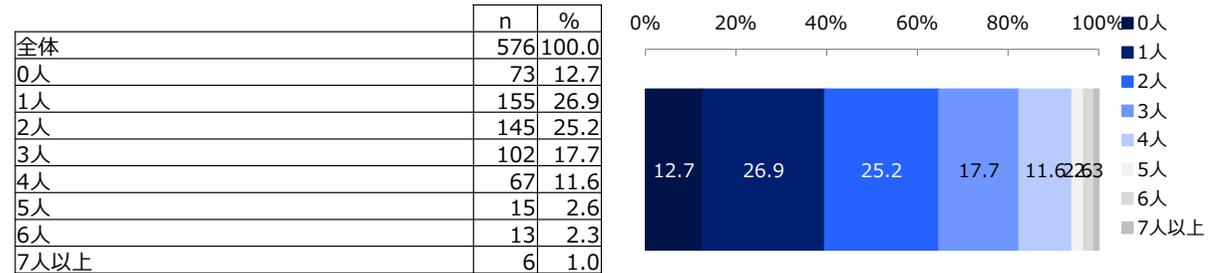


| | n | % |
|-----------|-----|-------|
| 全体 | 576 | 100.0 |
| 男性 15~34歳 | 91 | 15.8 |
| 男性 35~59歳 | 100 | 17.4 |
| 男性 60~89歳 | 100 | 17.4 |
| 女性 15~34歳 | 85 | 14.8 |
| 女性 35~59歳 | 100 | 17.4 |
| 女性 60~89歳 | 100 | 17.4 |

□ 職種



□ 同居家族



調査結果詳細

■認知 TOP2一覧

- ・ 認知TOP3は「TVCM」「新聞広告」「WEBCM」。
- ・ 若年層には「WEB広告」、「交通広告」、高齢層には「新聞広告」、「TVCM」の認知が高い。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

| | | n | 1 ・ 新聞 広告 | 2 ・ T V C M | 3 ・ W E B C M | 4 ・ ラ ジ オ 音 声 広 告 | 5 ・ W E B 音 声 広 告 | 6 ・ 交 通 広 告 | 該 当 な し |
|-----|-----------------|-----|--------------------|----------------------------|---------------------------------|---|---|----------------------------|------------------|
| 全体 | | 576 | 17.5 | 26.0 | 12.8 | 7.3 | 8.9 | 7.8 | 68.2 |
| 性別 | 男性 | 291 | 21.3 | 25.4 | 15.8 | 10.0 | 10.0 | 11.0 | 67.0 |
| | 女性 | 285 | 13.7 | 26.7 | 9.8 | 4.6 | 7.7 | 4.6 | 69.5 |
| 年代 | 15～34歳 | 176 | 15.9 | 22.7 | 17.6 | 11.4 | 14.2 | 14.8 | 72.7 |
| | 35～59歳 | 200 | 11.0 | 21.0 | 9.5 | 5.0 | 5.0 | 4.0 | 72.0 |
| | 60～89歳 | 200 | 25.5 | 34.0 | 12.0 | 6.0 | 8.0 | 5.5 | 60.5 |
| 性年代 | 男性 15～34歳 | 91 | 22.0 | 25.3 | 23.1 | 16.5 | 16.5 | 22.0 | 68.1 |
| | 男性 35～59歳 | 100 | 16.0 | 20.0 | 11.0 | 6.0 | 5.0 | 5.0 | 72.0 |
| | 男性 60～89歳 | 100 | 26.0 | 31.0 | 14.0 | 8.0 | 9.0 | 7.0 | 61.0 |
| | 女性 15～34歳 | 85 | 9.4 | 20.0 | 11.8 | 5.9 | 11.8 | 7.1 | 77.6 |
| | 女性 35～59歳 | 100 | 6.0 | 22.0 | 8.0 | 4.0 | 5.0 | 3.0 | 72.0 |
| | 女性 60～89歳 | 100 | 25.0 | 37.0 | 10.0 | 4.0 | 7.0 | 4.0 | 60.0 |
| 割付計 | 立地地域計 | 96 | 22.9 | 30.2 | 15.6 | 9.4 | 11.5 | 8.3 | 63.5 |
| | 30km圏計 | 240 | 14.2 | 22.1 | 12.5 | 6.7 | 7.9 | 7.9 | 71.7 |
| | その他新潟計 | 240 | 18.8 | 28.3 | 12.1 | 7.1 | 8.8 | 7.5 | 66.7 |
| 割付 | 【立地地域】男性15～34歳 | 11 | 27.3 | 27.3 | 36.4 | 27.3 | 27.3 | 36.4 | 63.6 |
| | 【立地地域】男性35～59歳 | 20 | 20.0 | 15.0 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 70.0 |
| | 【立地地域】男性60～89歳 | 20 | 30.0 | 40.0 | 20.0 | 15.0 | 15.0 | 10.0 | 50.0 |
| | 【立地地域】女性15～34歳 | 5 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 80.0 |
| | 【立地地域】女性35～59歳 | 20 | 5.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 80.0 |
| | 【立地地域】女性60～89歳 | 20 | 35.0 | 50.0 | 25.0 | 10.0 | 20.0 | 5.0 | 50.0 |
| | 【30km圏】男性15～34歳 | 40 | 20.0 | 25.0 | 22.5 | 17.5 | 15.0 | 20.0 | 65.0 |
| | 【30km圏】男性35～59歳 | 40 | 17.5 | 22.5 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 67.5 |
| | 【30km圏】男性60～89歳 | 40 | 15.0 | 20.0 | 12.5 | 7.5 | 10.0 | 7.5 | 75.0 |
| | 【30km圏】女性15～34歳 | 40 | 7.5 | 17.5 | 10.0 | 7.5 | 10.0 | 7.5 | 80.0 |
| | 【30km圏】女性35～59歳 | 40 | 5.0 | 17.5 | 17.5 | 2.5 | 7.5 | 7.5 | 75.0 |
| | 【30km圏】女性60～89歳 | 40 | 20.0 | 30.0 | 2.5 | 0.0 | 0.0 | 0.0 | 67.5 |
| | 【その他新潟】男性15～34歳 | 40 | 22.5 | 25.0 | 20.0 | 12.5 | 15.0 | 20.0 | 72.5 |
| | 【その他新潟】男性35～59歳 | 40 | 12.5 | 20.0 | 12.5 | 7.5 | 5.0 | 5.0 | 77.5 |
| | 【その他新潟】男性60～89歳 | 40 | 35.0 | 37.5 | 12.5 | 5.0 | 5.0 | 5.0 | 52.5 |
| | 【その他新潟】女性15～34歳 | 40 | 10.0 | 22.5 | 15.0 | 5.0 | 15.0 | 7.5 | 75.0 |
| | 【その他新潟】女性35～59歳 | 40 | 7.5 | 27.5 | 2.5 | 7.5 | 5.0 | 0.0 | 65.0 |
| | 【その他新潟】女性60～89歳 | 40 | 25.0 | 37.5 | 10.0 | 5.0 | 7.5 | 7.5 | 57.5 |

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、
 ■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * グレー表記はベースが
 n=29以下のため参考値

■ 認知 新聞広告（基本属性）

- ・ 「新聞広告」全体で、認知は17.5%。男性、60-89歳で認知が高い。
- ・ 新聞広告の特性として、男性や高齢者へのリーチが高い。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

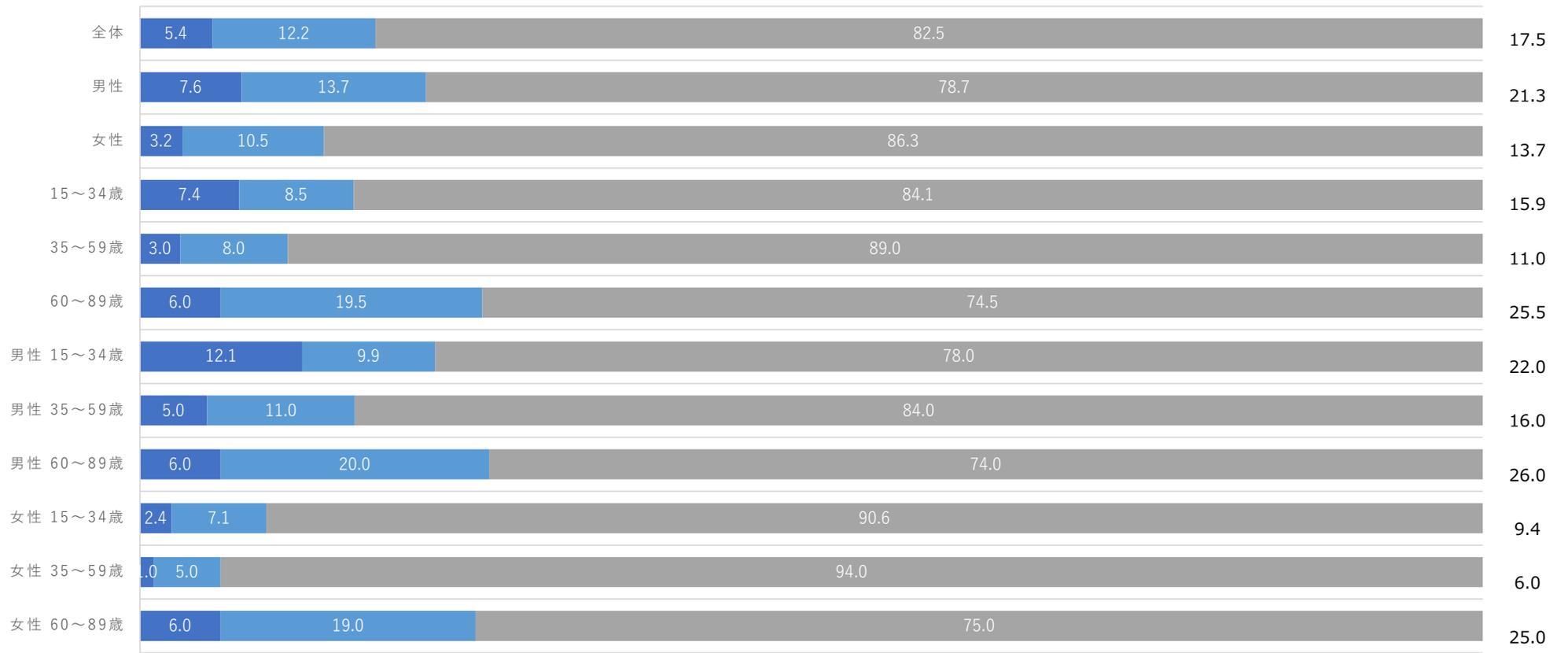
性別

年代

性年代

■ 確かに見た（聞いた） ■ 見た（聞いた）ような気がする ■ 見ていない（聞いていない）/覚えていない

TOP2



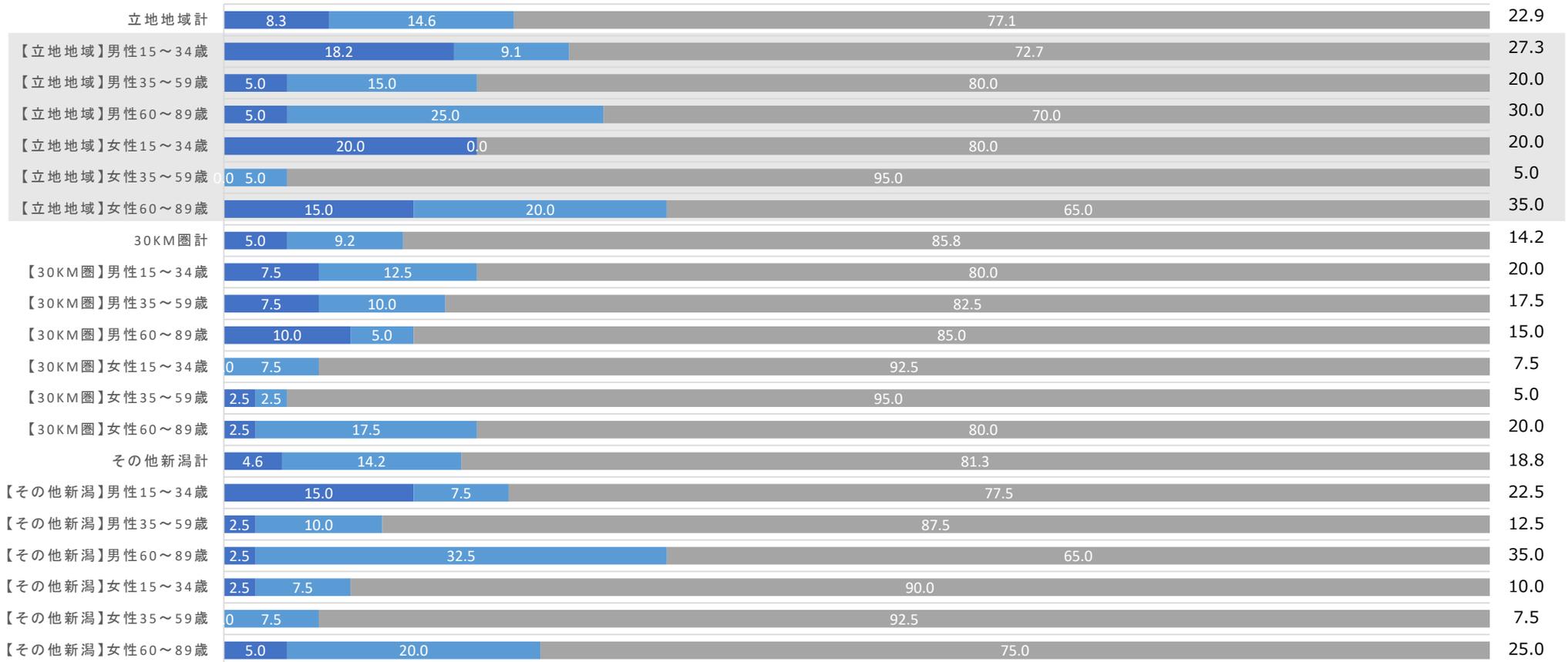
■認知 新聞広告（地域）

- 「新聞広告」認知は、立地地域で22.9%、30km圏内で14.2%、その他新潟で18.8%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

■ 確かに見た(聞いた) ■ 見た(聞いた)ような気がする ■ 見ていない(聞いていない)/覚えていない

TOP2



※n=30未満 グレーアウト

■認知 TVCM（基本属性）

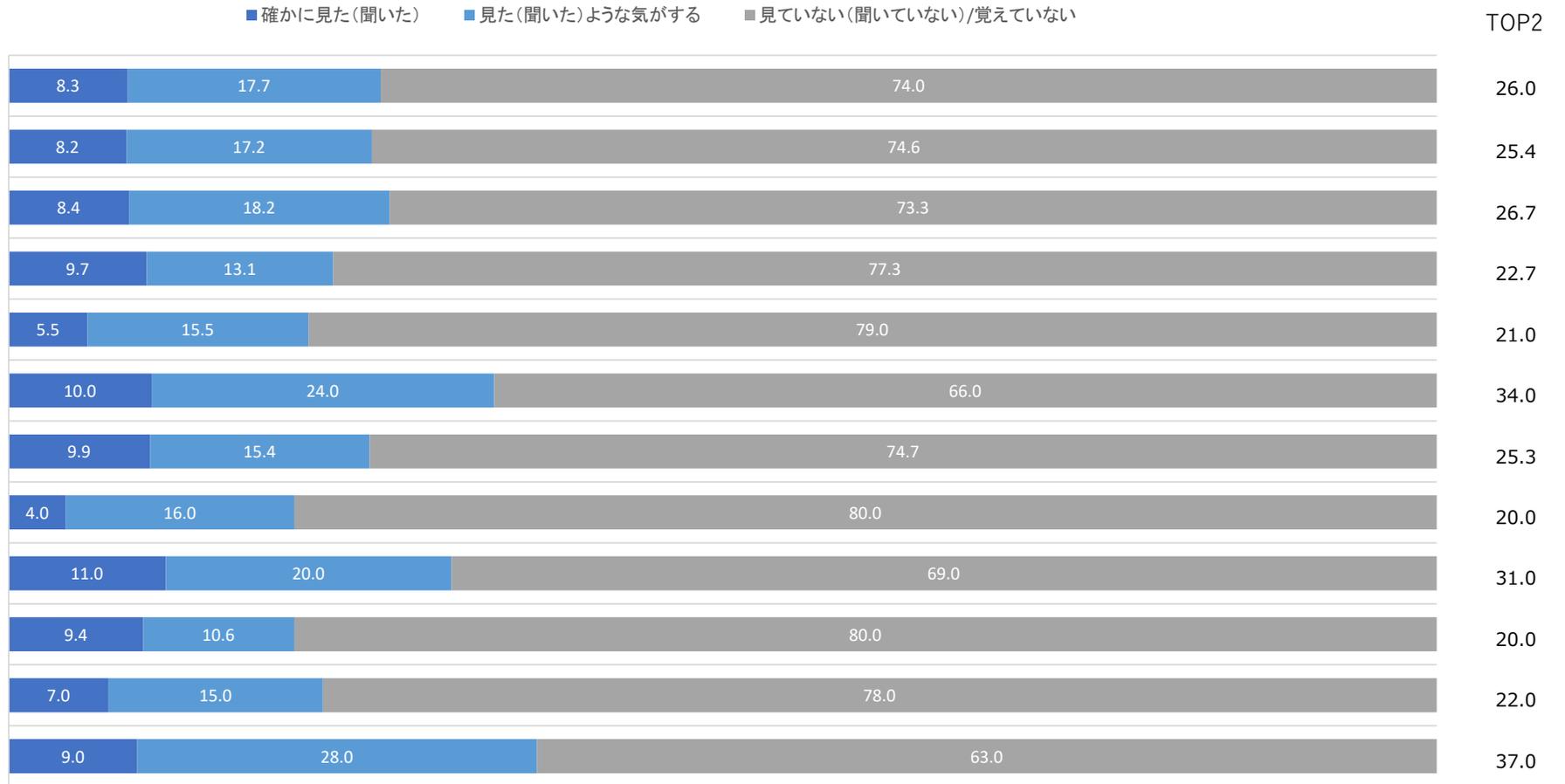
・「TVCM」全体で、認知は26.0%。60-89歳で認知が高い。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

性別

年代

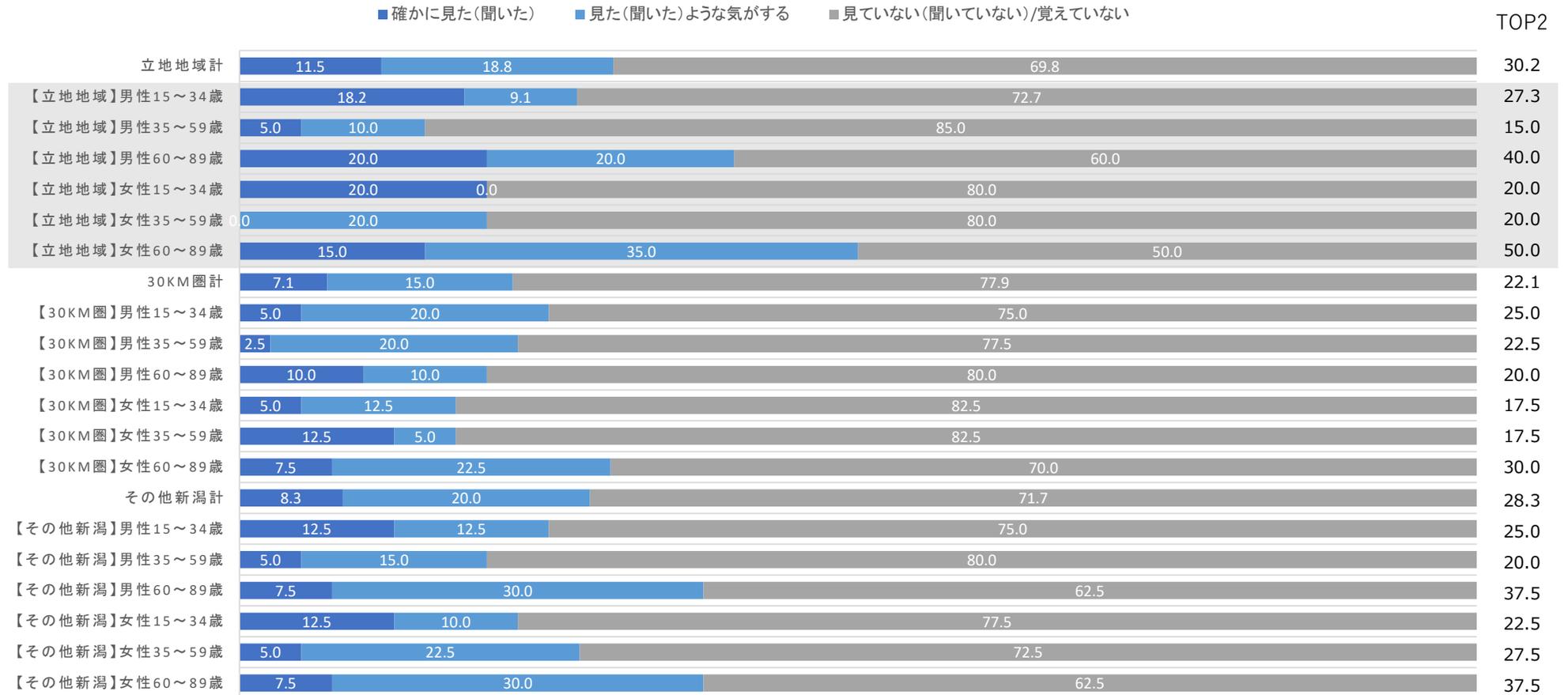
性年代



■認知 TVCM（地域）

- ・ 「TVCM」認知は、立地地域で30.2%、30km圏内で22.1%、その他新潟で28.3%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。



※n=30未満 グレーアウト

■ 認知 WEBCM (基本属性)

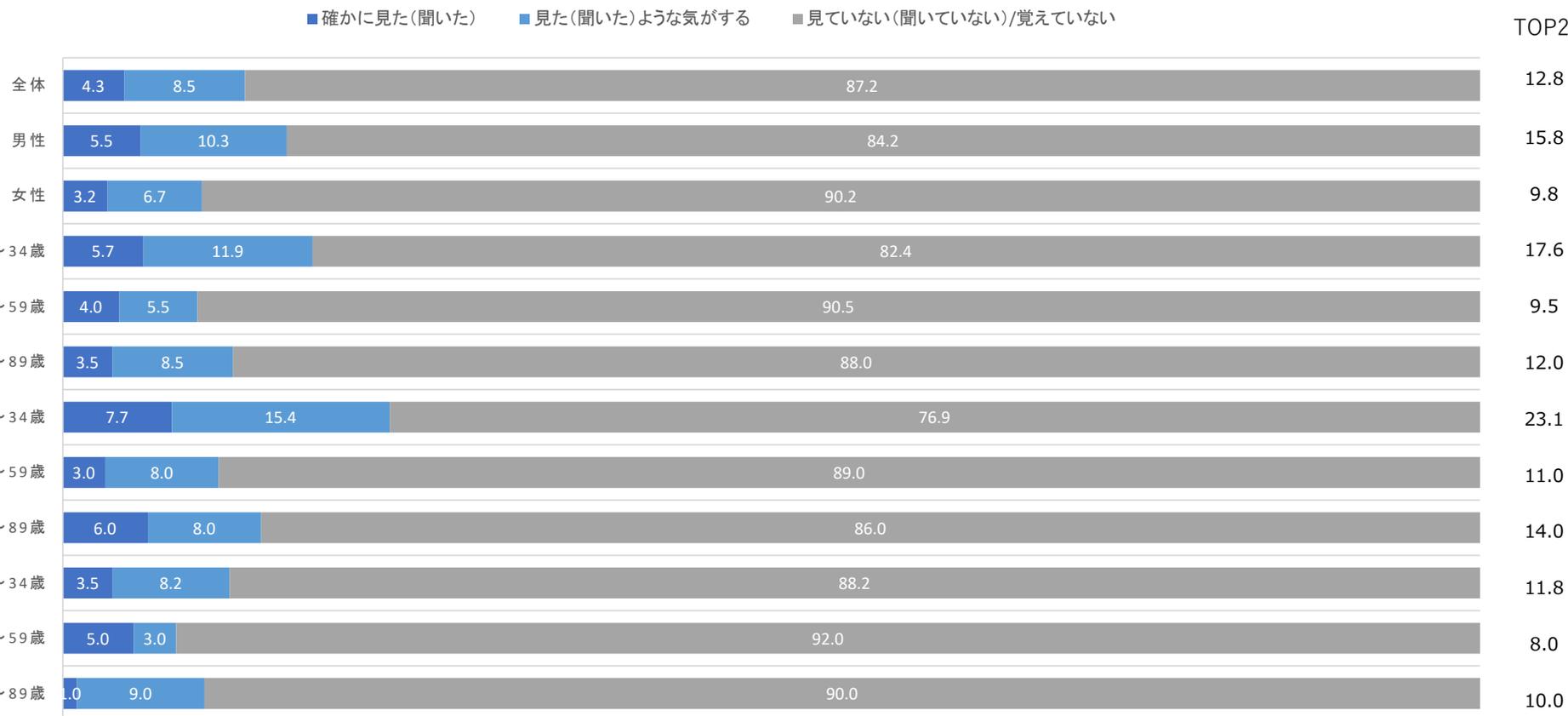
- 「WEBCM」全体で、認知は12.8%。15-34歳で認知が高い。
- WEBCMのメディアの特徴として、若年層へのリーチが高い。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

性別

年代

性年代

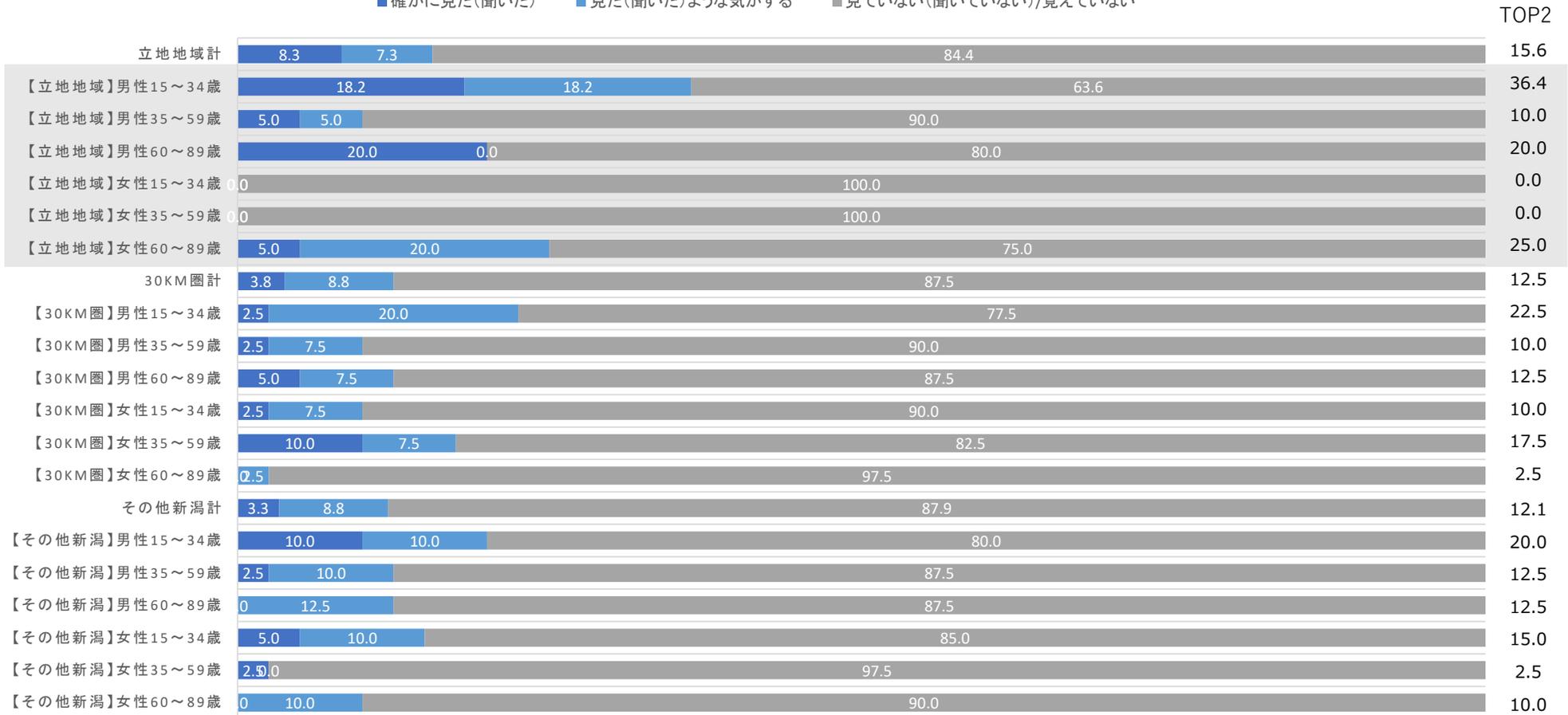


■認知 WEBCM (地域)

- ・ 「WEBCM」認知は、立地地域で15.6%、30km圏内で12.5%、その他新潟で12.1%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

■ 確かに見た(聞いた) ■ 見た(聞いた)ような気がする ■ 見ていない(聞いていない)/覚えていない



※n=30未満 グレーアウト

■認知 ラジオ音声広告（基本属性）

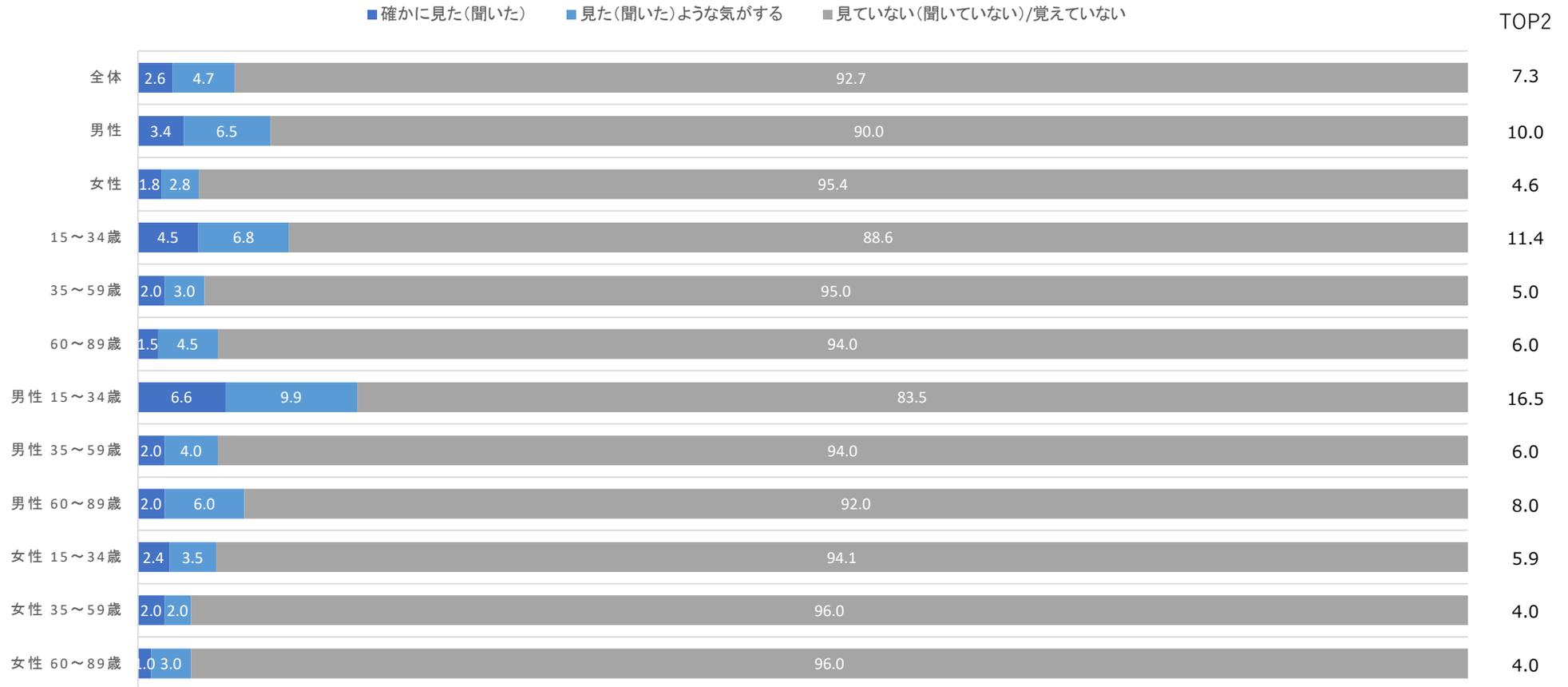
- ・ 「ラジオ音声広告」全体で、認知は7.3%。15-34歳で認知が高い。
- ・ ラジオ音声広告は、メディア特性として若年層へのリーチが高くなっている。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

性別

年代

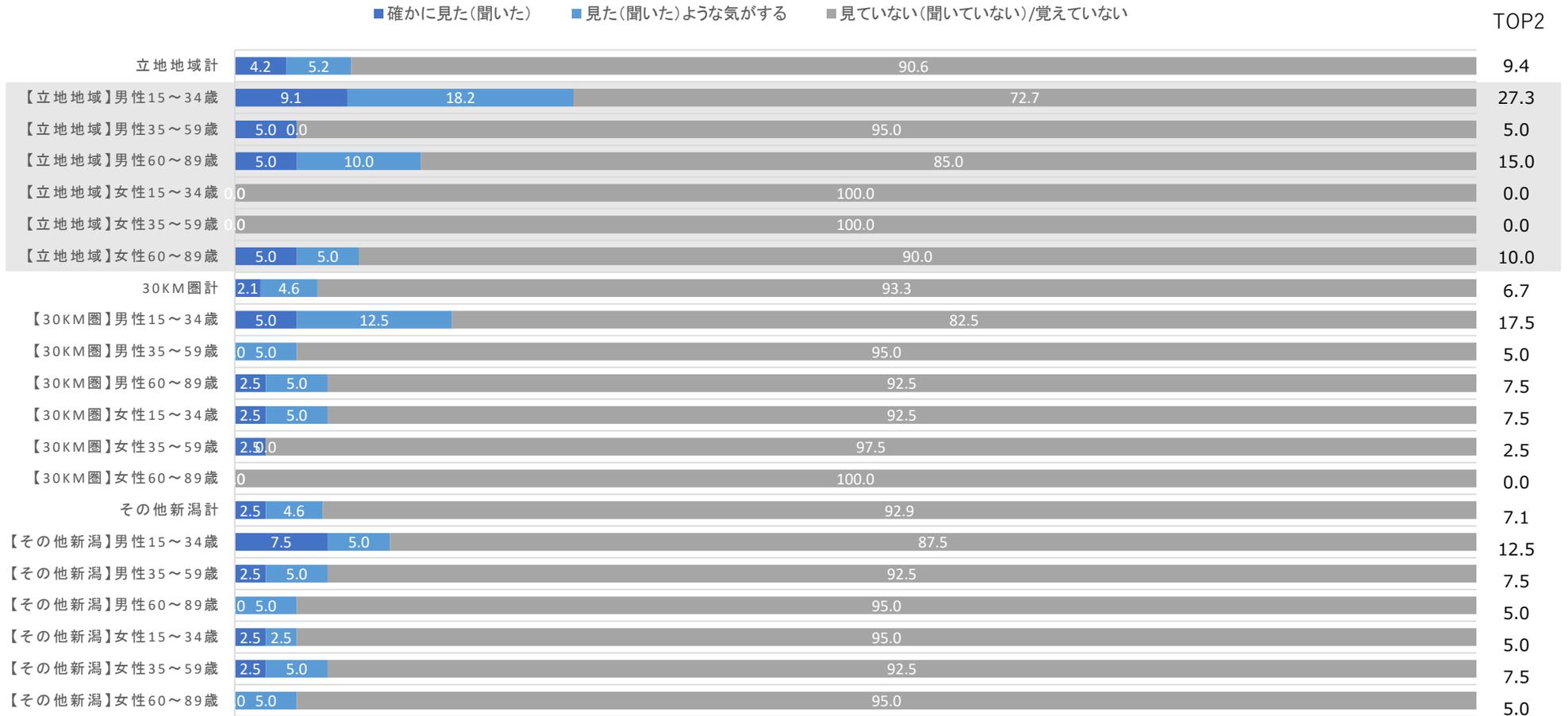
性年代



■認知 ラジオ音声広告（地域）

- ・ 「ラジオ音声広告」認知は、立地地域で9.4%、30km圏内で6.7%、その他新潟で7.1%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。



※n=30未満 グレーアウト

■認知 WEB音声広告（基本属性）

- ・「WEB音声広告」全体で、認知は8.9%。15-34歳で認知が高い。

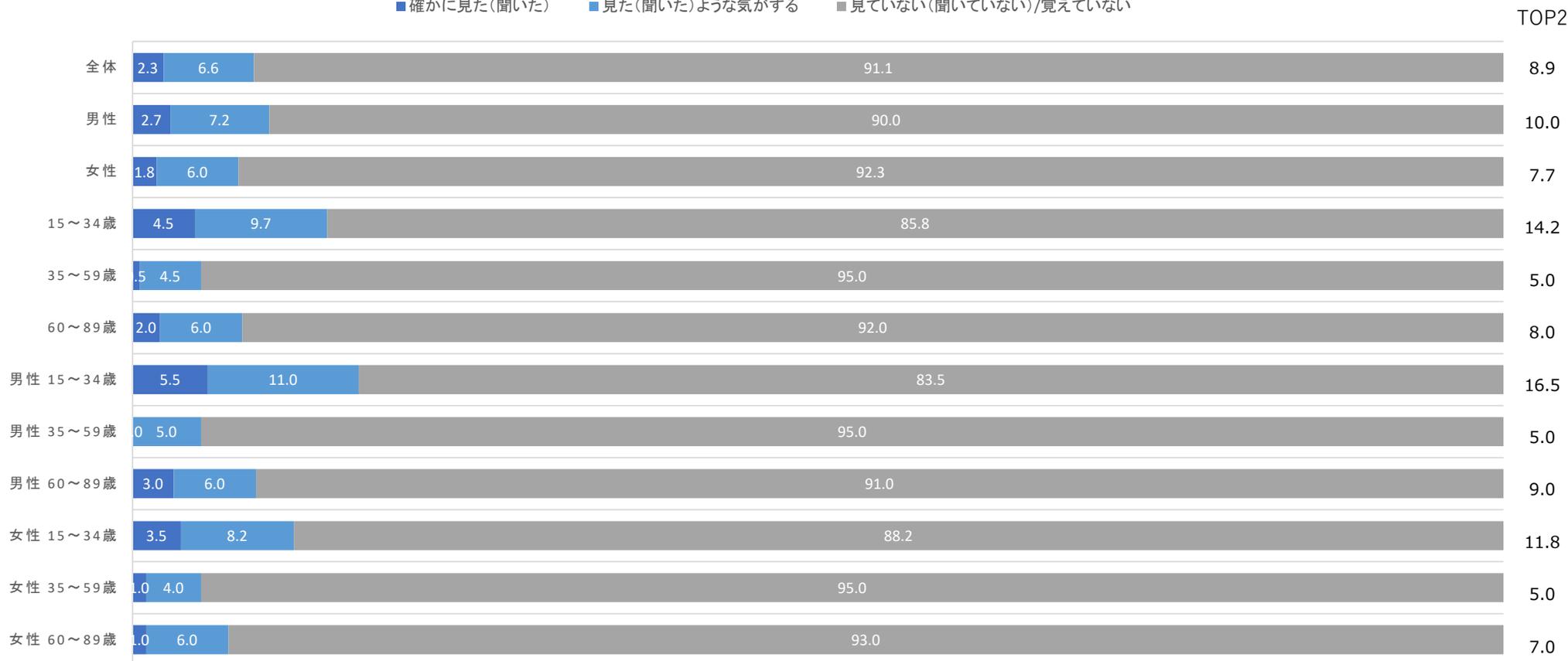
Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

性別

年代

性年代

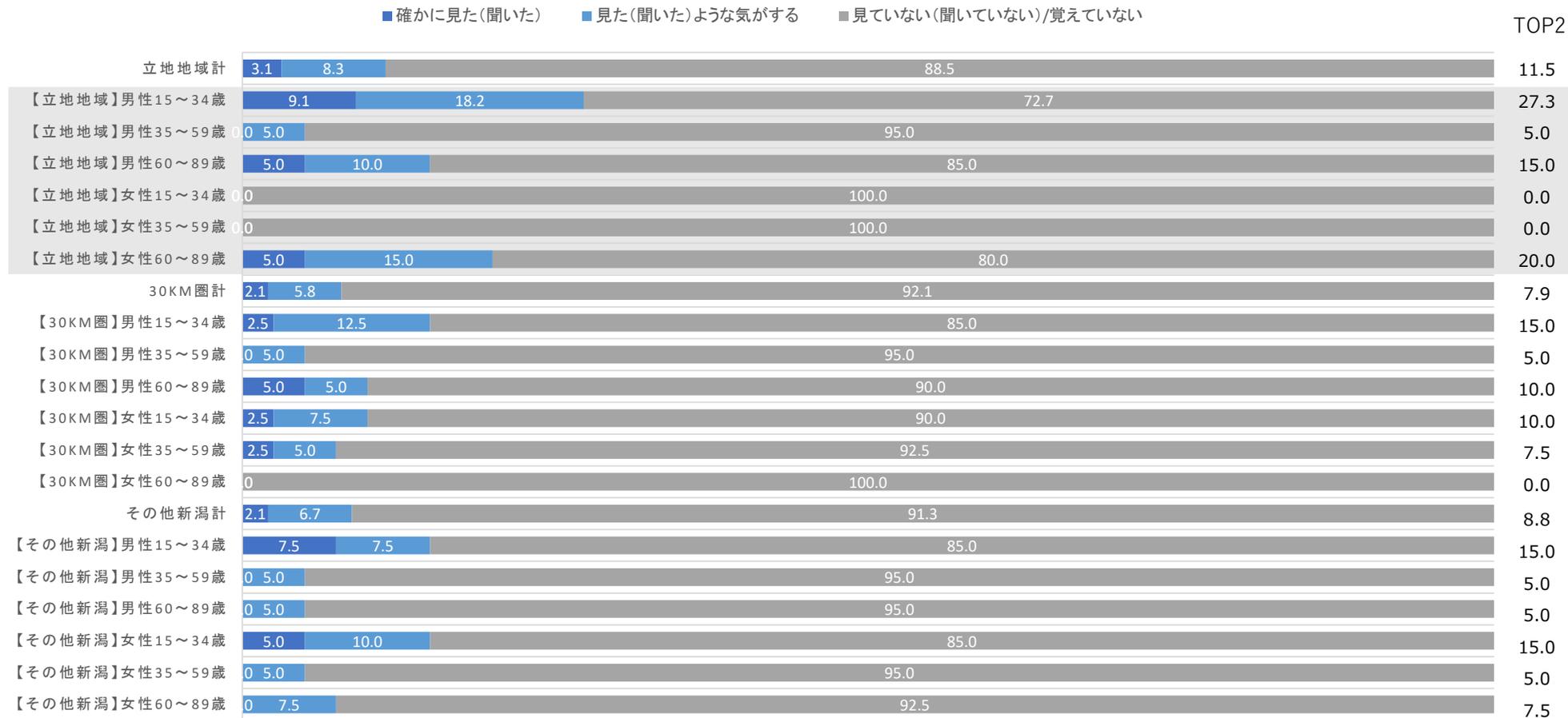
■ 確かに見た(聞いた) ■ 見た(聞いた)ような気がする ■ 見ていない(聞いていない)/覚えていない



■認知 WEB音声広告（地域）

- ・ 「Web音声広告」認知は、立地地域で11.5%、30km圏内で7.9%、その他新潟で8.8%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。



※n=30未満 グレーアウト

■認知 交通広告（基本属性）

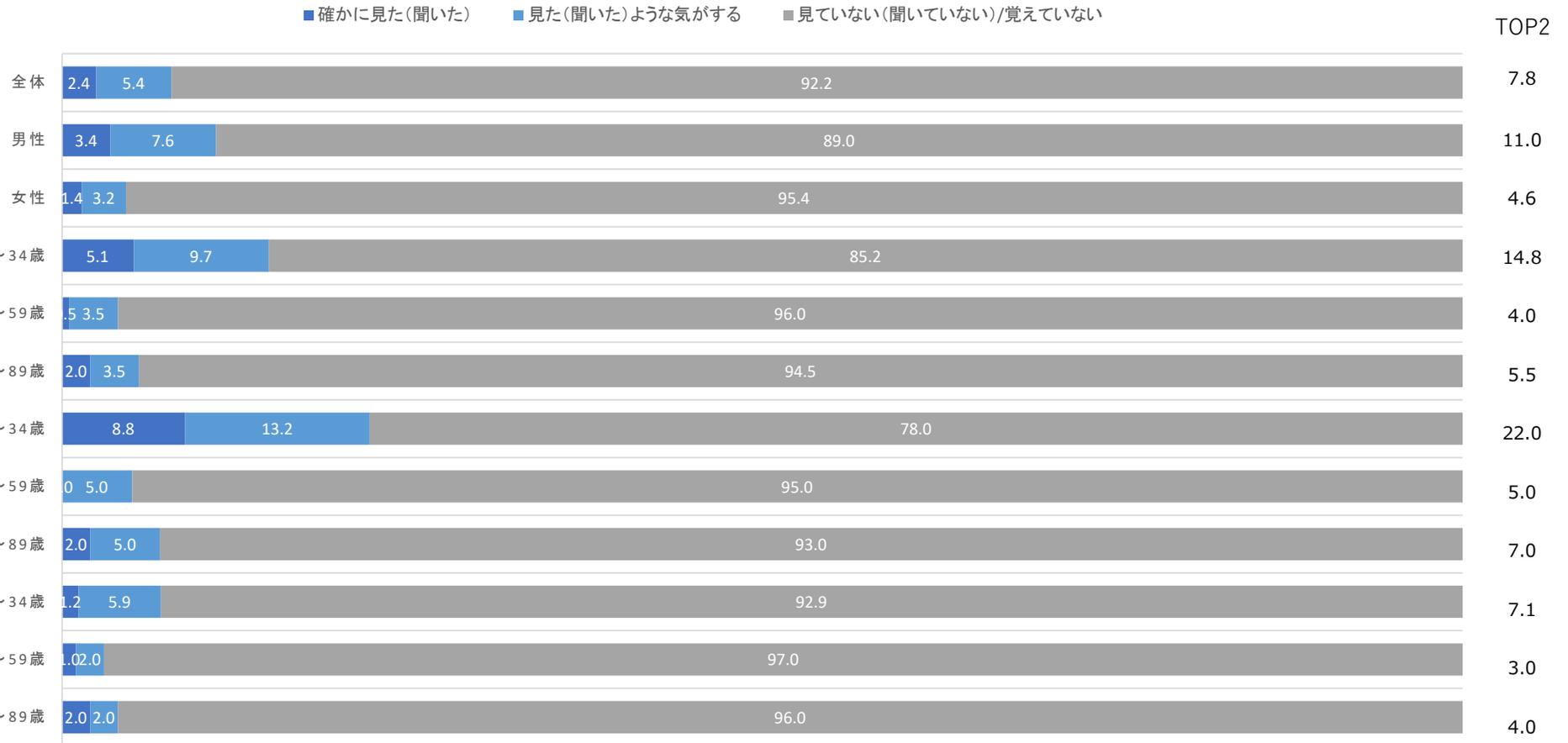
- ・ 「交通広告」全体で、認知は7.8%。15-34歳、特に男性15-34歳で認知が高い。
- ・ 交通広告はメディアの特性として通学・通勤で公共交通機関を利用する層にリーチが高い。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

性別

年代

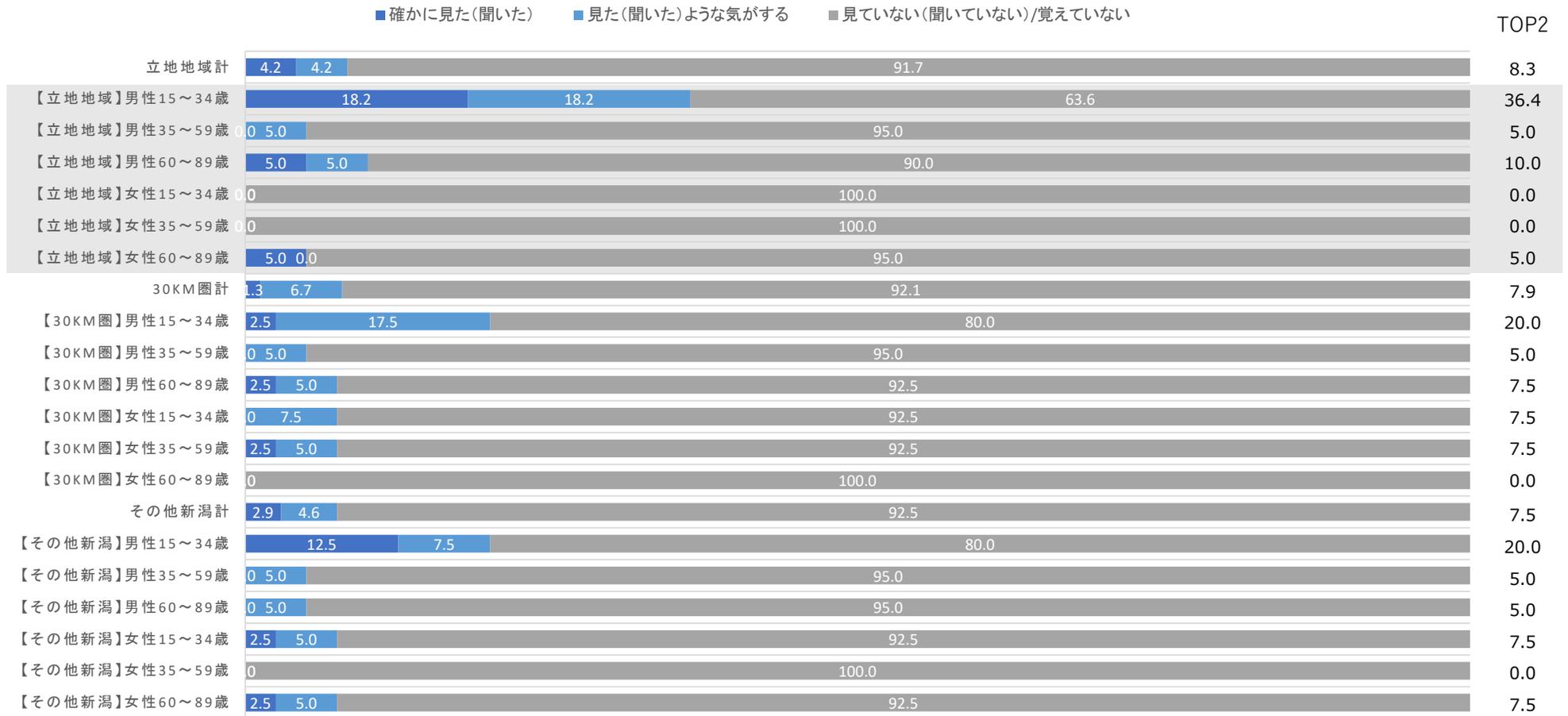
性年代



■認知 交通広告（地域）

- 「交通広告」認知は、立地地域で8.3%、30km圏内で7.9%、その他新潟で7.5%。

Q1.2024年11月～2025年2月にわたり、上記のメディアで日本のエネルギー・原子力についての広告が実施されました。あなたは、これらの広告や取り上げたメディア等の記事やニュースを見たことがありますか。

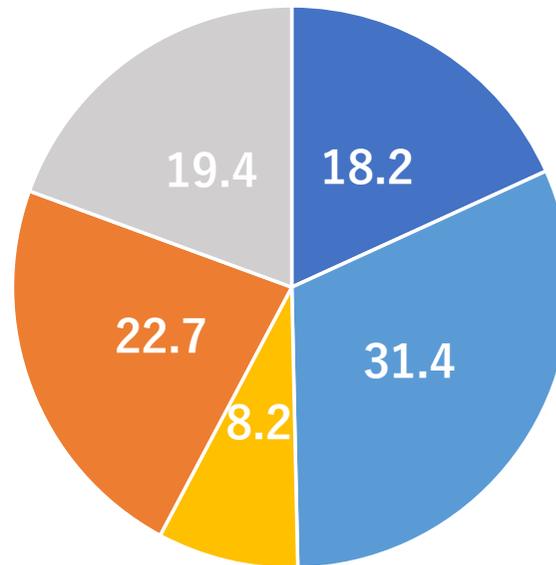


※n=30未満 グレーアウト

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について（基本属性）

- ・ 「再稼働すべき」「規制許可と避難対応があれば容認」は49.6%、「規制許可と避難対応があっても容認できない」「再稼働すべきでない」は30.9%、「分からない、どちらでもない」は19.4%

Q2.柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について、あなたはどう考えますか。

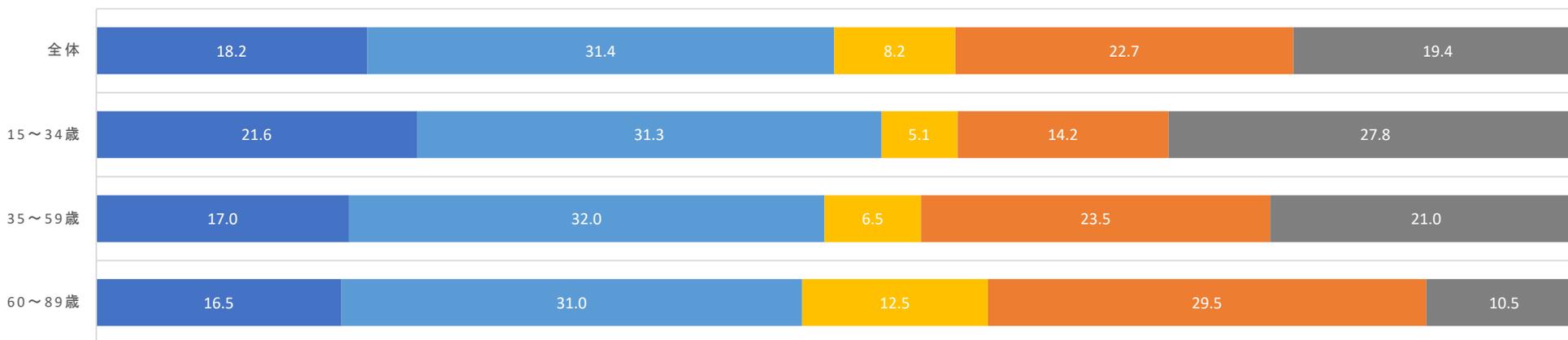
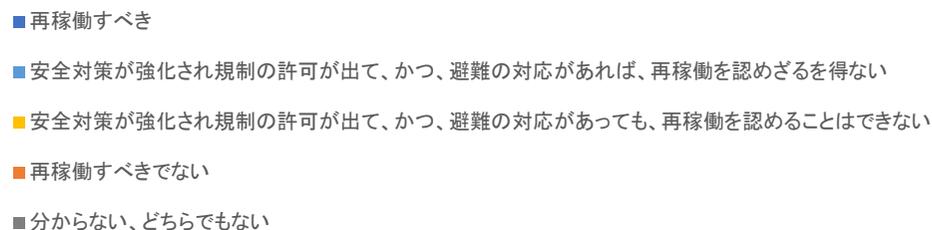


- 再稼働すべき
- 安全対策が強化され規制の許可が出て、かつ、避難の対応があれば、再稼働を認めざるを得ない
- 安全対策が強化され規制の許可が出て、かつ、避難の対応があっても、再稼働を認めることはできない
- 再稼働すべきでない
- 分からない、どちらでもない

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について（基本属性）

- ・ 男性、女性いずれとも、若年層は、「分からない・どちらでも良い」が他の年層と比較して高い一方、高齢層は「規制許可と避難対応があっても容認できない」、「再稼働すべきでない」が他の年層と比較して高い。

Q2.柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について、あなたはどう考えますか。

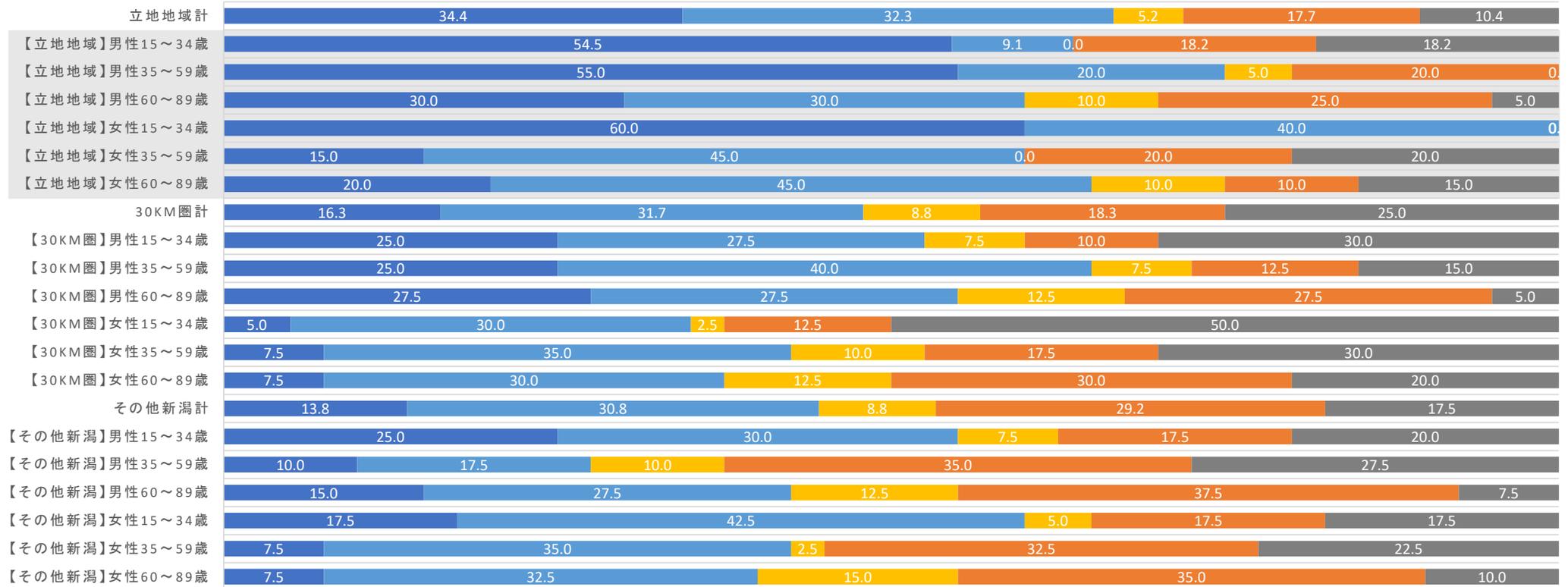


■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について（地域）

- ・ 「再稼働すべき」、「規制許可と避難対応あれば容認」は、立地地域で66.7%、30km圏内で48.0%、その他で44.6%。「規制許可と避難対応があっても容認できない」、「再稼働すべきでない」は、立地地域で22.9%、30km圏内で27.1%、その他で25.0%。「分からない、どちらでもない」は、立地地域で10.4%、30km圏内で25.0%、その他で17.5%。

Q2.柏崎刈羽原子力発電所の再稼働について、あなたはどのように考えますか。

- 再稼働すべき
- 安全対策が強化され規制の許可が出て、かつ、避難の対応があれば、再稼働を認めざるを得ない
- 安全対策が強化され規制の許可が出て、かつ、避難の対応があっても、再稼働を認めることはできない
- 再稼働すべきでない
- 分からない、どちらでもない



※n=30未満 グレーアウト

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働（賛成）についての理由

- ・ 賛成の理由TOP3 は「エネルギー自給率の向上や電力の安定供給につながると思うから」、「電気料金の抑制につながると思うから」、「資源の少ない国としてあらゆる電源を活用する必要があると思うから」

Q3.前問で選んだあなたの考えの理由として、当てはまるものを以下からすべてお選びください。

| | | n | エネルギー自給率の向上や電力の安定供給につながると思うから | 電気料金の抑制につながると思うから | 資源の少ない国としてあらゆる電源を活用する必要があると思うから | 発電所が重要だと思う地域の経済や雇用に与える影響 | 電力需要が増える見込みを踏まえる必要だと思うから | 日本がエネルギー政策に貢献するといえる | 地球温暖化防止やカーボンニュートラ | 脱炭素状況の確保が産業競争力を左右する | 火力発電が太平洋沿岸に集中する | 海外でも原子力発電を活用する国がある | その他 |
|-----|-----------|-----|-------------------------------|-------------------|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|---------------------|-------------------|---------------------|-----------------|--------------------|-----|
| 全体 | | 286 | 52.1 | 48.3 | 46.2 | 35.0 | 33.6 | 29.0 | 24.1 | 17.1 | 12.6 | 9.8 | 1.0 |
| 性別 | 男性 | 153 | 52.9 | 49.0 | 48.4 | 31.4 | 30.7 | 37.3 | 23.5 | 19.0 | 13.1 | 9.8 | 1.3 |
| | 女性 | 133 | 51.1 | 47.4 | 43.6 | 39.1 | 36.8 | 19.5 | 24.8 | 15.0 | 12.0 | 9.8 | 0.8 |
| 年代 | 15~34歳 | 93 | 48.4 | 46.2 | 39.8 | 22.6 | 33.3 | 24.7 | 11.8 | 15.1 | 15.1 | 14.0 | 1.1 |
| | 35~59歳 | 98 | 49.0 | 50.0 | 42.9 | 38.8 | 32.7 | 28.6 | 26.5 | 17.3 | 12.2 | 11.2 | 1.0 |
| | 60~89歳 | 95 | 58.9 | 48.4 | 55.8 | 43.2 | 34.7 | 33.7 | 33.7 | 18.9 | 10.5 | 4.2 | 1.1 |
| 性年代 | 男性 15~34歳 | 50 | 46.0 | 42.0 | 42.0 | 12.0 | 28.0 | 34.0 | 12.0 | 18.0 | 14.0 | 16.0 | 0.0 |
| | 男性 35~59歳 | 52 | 50.0 | 59.6 | 50.0 | 44.2 | 38.5 | 34.6 | 28.8 | 19.2 | 15.4 | 7.7 | 1.9 |
| | 男性 60~89歳 | 51 | 62.7 | 45.1 | 52.9 | 37.3 | 25.5 | 43.1 | 29.4 | 19.6 | 9.8 | 5.9 | 2.0 |
| | 女性 15~34歳 | 43 | 51.2 | 51.2 | 37.2 | 34.9 | 39.5 | 14.0 | 11.6 | 11.6 | 16.3 | 11.6 | 2.3 |
| | 女性 35~59歳 | 46 | 47.8 | 39.1 | 34.8 | 32.6 | 26.1 | 21.7 | 23.9 | 15.2 | 8.7 | 15.2 | 0.0 |
| | 女性 60~89歳 | 44 | 54.5 | 52.3 | 59.1 | 50.0 | 45.5 | 22.7 | 38.6 | 18.2 | 11.4 | 2.3 | 0.0 |
| 割付計 | 立地地域計 | 64 | 45.3 | 40.6 | 42.2 | 56.3 | 25.0 | 31.3 | 31.3 | 15.6 | 18.8 | 7.8 | 1.6 |
| | 30km圏計 | 115 | 48.7 | 50.4 | 44.3 | 31.3 | 36.5 | 31.3 | 20.0 | 13.9 | 10.4 | 7.0 | 1.7 |
| | その他新潟計 | 107 | 59.8 | 50.5 | 50.5 | 26.2 | 35.5 | 25.2 | 24.3 | 21.5 | 11.2 | 14.0 | 0.0 |

※地域×性年代はサンプル不足のため割愛

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、
■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースが
n=29以下のため参考値

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働（反対）についての理由

- ・ 反対の理由TOP3は「事故が起きた場合に避難することは困難だと思うから」、「いかなる安全対策をとろうが人間の想定では対応できず、事故が起きた場合の影響が大きいと思うから」、「使用済燃料の再処理は開始されておらず、最終処分地も決まってないまま、原子力を活用すべきでないと思うから」

Q4.前問で選んだあなたの考えの理由として、当てはまるものを以下からすべてお選びください。

| | | n | 思 う 事 故 が 起 き た 場 合 に 避 難 す る こ と は 困 難 だ と | い か な る 安 全 対 策 が 起 き た 場 合 の 影 響 が 大 き い と 思 う か ら | 用 す べ き で な い と 思 う か ら | 使 用 済 燃 料 の 再 処 理 は 開 始 さ れ て お ら ず 、 最 終 処 分 地 も 決 ま っ て い な い ま ま 、 原 子 力 を 活 用 す べ き で な い と 思 う か ら | 電 力 事 業 者 を 信 用 で き な い か ら | 撃 武 力 攻 撃 の 対 象 と な る 可 能 性 が あ り 、 そ の 攻 | う 日 本 全 体 の た め に 犠 牲 を 強 い ら れ て い る と い | は 原 子 力 発 電 が な く と も 電 力 の 安 定 供 給 に 問 題 | 電 気 料 金 の 抑 制 に つ な が ら な い と 思 う か ら | 海 外 で も 原 子 力 発 電 を や め た 国 が あ る か ら | 全 て 再 生 可 能 エ ネ ル ギ ー で 対 応 す れ ば い い と | そ の 他 : |
|-----|-----------|-----|--|--|--|--|--|---|---|---|---|---|--|------------------|
| 全体 | | 178 | 60.7 | 51.7 | 42.7 | 41.0 | 38.8 | 33.1 | 21.9 | 18.0 | 17.4 | 16.3 | 3.4 | |
| 性別 | 男性 | 93 | 55.9 | 46.2 | 45.2 | 38.7 | 40.9 | 29.0 | 23.7 | 21.5 | 14.0 | 15.1 | 3.2 | |
| | 女性 | 85 | 65.9 | 57.6 | 40.0 | 43.5 | 36.5 | 37.6 | 20.0 | 14.1 | 21.2 | 17.6 | 3.5 | |
| 年代 | 15～34歳 | 34 | 55.9 | 44.1 | 35.3 | 26.5 | 32.4 | 35.3 | 17.6 | 11.8 | 14.7 | 20.6 | 0.0 | |
| | 35～59歳 | 60 | 61.7 | 40.0 | 31.7 | 31.7 | 35.0 | 28.3 | 25.0 | 21.7 | 16.7 | 16.7 | 5.0 | |
| | 60～89歳 | 84 | 61.9 | 63.1 | 53.6 | 53.6 | 44.0 | 35.7 | 21.4 | 17.9 | 19.0 | 14.3 | 3.6 | |
| 性年代 | 男性 15～34歳 | 19 | 52.6 | 36.8 | 42.1 | 26.3 | 26.3 | 42.1 | 26.3 | 15.8 | 15.8 | 21.1 | 0.0 | |
| | 男性 35～59歳 | 31 | 58.1 | 35.5 | 35.5 | 25.8 | 41.9 | 22.6 | 25.8 | 25.8 | 12.9 | 16.1 | 3.2 | |
| | 男性 60～89歳 | 43 | 55.8 | 58.1 | 53.5 | 53.5 | 46.5 | 27.9 | 20.9 | 20.9 | 14.0 | 11.6 | 4.7 | |
| | 女性 15～34歳 | 15 | 60.0 | 53.3 | 26.7 | 26.7 | 40.0 | 26.7 | 6.7 | 6.7 | 13.3 | 20.0 | 0.0 | |
| | 女性 35～59歳 | 29 | 65.5 | 44.8 | 27.6 | 37.9 | 27.6 | 34.5 | 24.1 | 17.2 | 20.7 | 17.2 | 6.9 | |
| | 女性 60～89歳 | 41 | 68.3 | 68.3 | 53.7 | 53.7 | 41.5 | 43.9 | 22.0 | 14.6 | 24.4 | 17.1 | 2.4 | |
| 割付計 | 立地地域計 | 22 | 59.1 | 50.0 | 36.4 | 45.5 | 27.3 | 31.8 | 36.4 | 13.6 | 22.7 | 13.6 | 0.0 | |
| | 30km圏計 | 65 | 61.5 | 52.3 | 47.7 | 44.6 | 44.6 | 33.8 | 18.5 | 21.5 | 15.4 | 13.8 | 4.6 | |
| | その他新潟計 | 91 | 60.4 | 51.6 | 40.7 | 37.4 | 37.4 | 33.0 | 20.9 | 16.5 | 17.6 | 18.7 | 3.3 | |

※地域×性年代はサンプル不足のため割愛

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、
■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

* グレー表記はベースが
n=29以下のため参考値

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の考えのもとになった情報（基本属性）

・ 考えのもとになった情報TOP3は、「テレビ」「新聞」「インターネットニュース」。

Q5.原子力発電や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に対するあなたの考えは、こういった情報のもとになっていますか。

| | | n | テレビ | 新聞 | インターネットニュース | YouTubeやXなどのソーシャルメディア | 知人の話 | 書籍・雑誌 | ラジオ | 講演・説明会 | 学校教育 | その他： |
|-----|-----------|-----|------|------|-------------|-----------------------|------|-------|-----|--------|------|------|
| 全体 | | 576 | 67.9 | 36.6 | 35.2 | 15.3 | 10.6 | 5.9 | 5.2 | 5.2 | 4.0 | 3.0 |
| 性別 | 男性 | 291 | 61.5 | 43.6 | 38.1 | 18.6 | 7.9 | 7.6 | 7.2 | 3.1 | 3.8 | 3.8 |
| | 女性 | 285 | 74.4 | 29.5 | 32.3 | 11.9 | 13.3 | 4.2 | 3.2 | 7.4 | 4.2 | 2.1 |
| 年代 | 15～34歳 | 176 | 55.1 | 22.7 | 35.8 | 21.0 | 9.1 | 5.1 | 6.8 | 3.4 | 9.7 | 2.3 |
| | 35～59歳 | 200 | 66.0 | 30.5 | 36.0 | 13.0 | 14.0 | 5.0 | 2.5 | 3.5 | 2.5 | 3.5 |
| | 60～89歳 | 200 | 81.0 | 55.0 | 34.0 | 12.5 | 8.5 | 7.5 | 6.5 | 8.5 | 0.5 | 3.0 |
| 性年代 | 男性 15～34歳 | 91 | 44.0 | 29.7 | 38.5 | 26.4 | 6.6 | 4.4 | 8.8 | 3.3 | 8.8 | 3.3 |
| | 男性 35～59歳 | 100 | 61.0 | 38.0 | 38.0 | 16.0 | 13.0 | 10.0 | 4.0 | 3.0 | 2.0 | 5.0 |
| | 男性 60～89歳 | 100 | 78.0 | 62.0 | 38.0 | 14.0 | 4.0 | 8.0 | 9.0 | 3.0 | 1.0 | 3.0 |
| | 女性 15～34歳 | 85 | 67.1 | 15.3 | 32.9 | 15.3 | 11.8 | 5.9 | 4.7 | 3.5 | 10.6 | 1.2 |
| | 女性 35～59歳 | 100 | 71.0 | 23.0 | 34.0 | 10.0 | 15.0 | 0.0 | 1.0 | 4.0 | 3.0 | 2.0 |
| | 女性 60～89歳 | 100 | 84.0 | 48.0 | 30.0 | 11.0 | 13.0 | 7.0 | 4.0 | 14.0 | 0.0 | 3.0 |

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下
 * グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

■ 柏崎刈羽原子力発電所の再稼働の考えのもとになった情報（地域）

- ・ 自身の考えのもとになった情報は、立地地域で「講演・説明会」、30km圏内で「インターネットニュース」、その他新潟で「新聞」が特徴的。

Q5.原子力発電や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に対するあなたの考えは、こういった情報のもとになっていますか。

| | n | テレビ | 新聞 | インターネットニュース | YouTubeやXなどのソーシャルメディア | 知人の話 | 書籍・雑誌 | ラジオ | 講演・説明会 | 学校教育 | その他： |
|-----------------|-----|------|------|-------------|-----------------------|------|-------|------|--------|------|------|
| 立地地域計 | 96 | 64.6 | 40.6 | 32.3 | 13.5 | 14.6 | 7.3 | 4.2 | 10.4 | 3.1 | 6.3 |
| 割付 | | | | | | | | | | | |
| 【立地地域】男性15～34歳 | 11 | 27.3 | 18.2 | 18.2 | 27.3 | 18.2 | 9.1 | 0.0 | 0.0 | 9.1 | 0.0 |
| 【立地地域】男性35～59歳 | 20 | 45.0 | 35.0 | 45.0 | 20.0 | 20.0 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 0.0 | 10.0 |
| 【立地地域】男性60～89歳 | 20 | 70.0 | 70.0 | 30.0 | 10.0 | 0.0 | 10.0 | 0.0 | 5.0 | 0.0 | 5.0 |
| 【立地地域】女性15～34歳 | 5 | 60.0 | 60.0 | 20.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 | 0.0 | 0.0 | 20.0 |
| 【立地地域】女性35～59歳 | 20 | 75.0 | 20.0 | 25.0 | 5.0 | 25.0 | 0.0 | 0.0 | 5.0 | 10.0 | 0.0 |
| 【立地地域】女性60～89歳 | 20 | 90.0 | 45.0 | 40.0 | 10.0 | 15.0 | 10.0 | 10.0 | 35.0 | 0.0 | 10.0 |
| 30km圏計 | 240 | 65.4 | 30.0 | 41.3 | 17.1 | 10.4 | 4.2 | 3.3 | 3.8 | 4.2 | 2.5 |
| 【30km圏】男性15～34歳 | 40 | 45.0 | 32.5 | 37.5 | 35.0 | 7.5 | 2.5 | 5.0 | 2.5 | 10.0 | 2.5 |
| 【30km圏】男性35～59歳 | 40 | 50.0 | 25.0 | 37.5 | 15.0 | 17.5 | 7.5 | 2.5 | 5.0 | 2.5 | 5.0 |
| 【30km圏】男性60～89歳 | 40 | 82.5 | 50.0 | 55.0 | 17.5 | 7.5 | 10.0 | 10.0 | 2.5 | 0.0 | 5.0 |
| 【30km圏】女性15～34歳 | 40 | 70.0 | 10.0 | 30.0 | 10.0 | 5.0 | 5.0 | 2.5 | 2.5 | 12.5 | 0.0 |
| 【30km圏】女性35～59歳 | 40 | 62.5 | 15.0 | 55.0 | 15.0 | 15.0 | 0.0 | 0.0 | 2.5 | 0.0 | 2.5 |
| 【30km圏】女性60～89歳 | 40 | 82.5 | 47.5 | 32.5 | 10.0 | 10.0 | 0.0 | 0.0 | 7.5 | 0.0 | 0.0 |
| その他新潟計 | 240 | 71.7 | 41.7 | 30.4 | 14.2 | 9.2 | 7.1 | 7.5 | 4.6 | 4.2 | 2.1 |
| 【その他新潟】男性15～34歳 | 40 | 47.5 | 30.0 | 45.0 | 17.5 | 2.5 | 5.0 | 15.0 | 5.0 | 7.5 | 5.0 |
| 【その他新潟】男性35～59歳 | 40 | 80.0 | 52.5 | 35.0 | 15.0 | 5.0 | 12.5 | 5.0 | 0.0 | 2.5 | 2.5 |
| 【その他新潟】男性60～89歳 | 40 | 77.5 | 70.0 | 25.0 | 12.5 | 2.5 | 5.0 | 12.5 | 2.5 | 2.5 | 0.0 |
| 【その他新潟】女性15～34歳 | 40 | 65.0 | 15.0 | 37.5 | 20.0 | 20.0 | 7.5 | 5.0 | 5.0 | 10.0 | 0.0 |
| 【その他新潟】女性35～59歳 | 40 | 77.5 | 32.5 | 17.5 | 7.5 | 10.0 | 0.0 | 2.5 | 5.0 | 2.5 | 2.5 |
| 【その他新潟】女性60～89歳 | 40 | 82.5 | 50.0 | 22.5 | 12.5 | 15.0 | 12.5 | 5.0 | 10.0 | 0.0 | 2.5 |

* ■は全体+10ポイント以上、■は+5ポイント以上、■は-10ポイント以下、■は-5ポイント以下

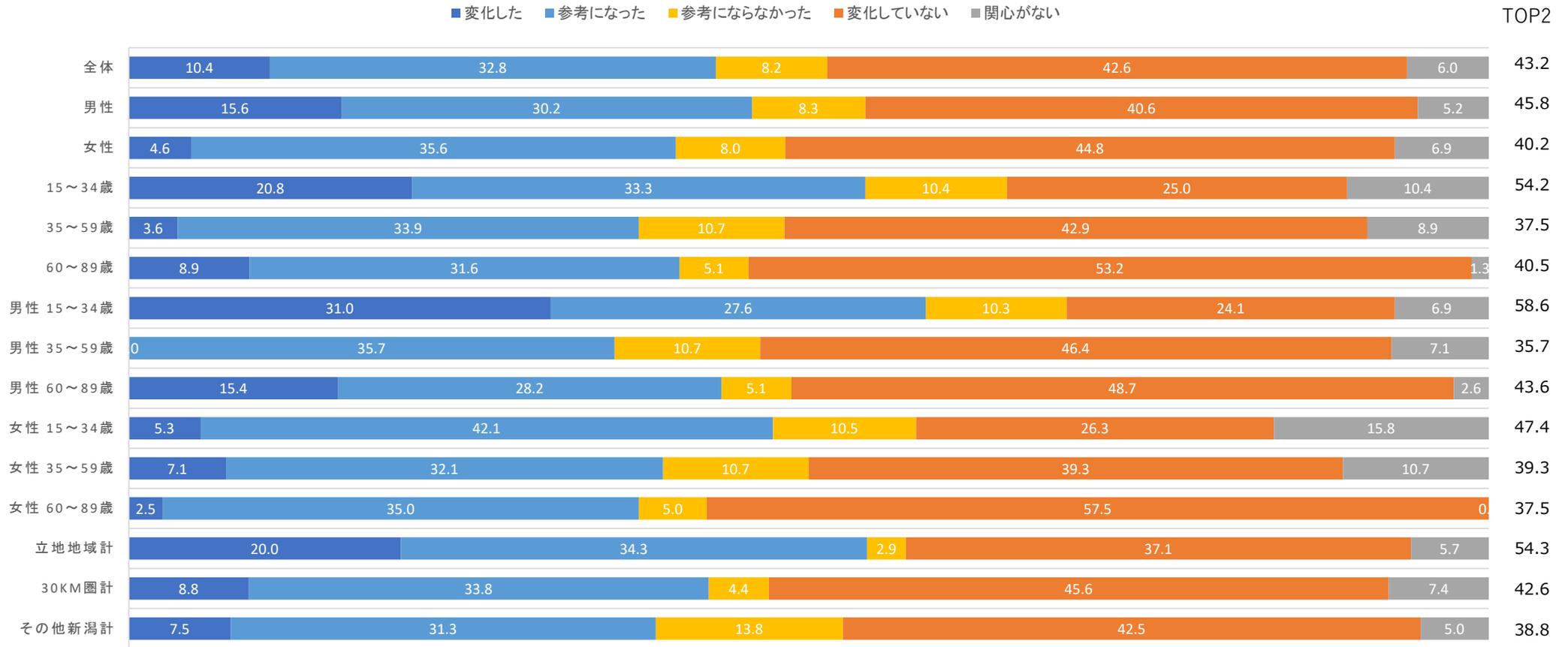
* グレー表記はベースがn=29以下のため参考値

■ 広告を見た再稼働に対する態度変容

- 全体で「変化した」が10.4%、「参考になった」が32.8%。
- 「変化した」「参考になった」合わせて肯定的な態度変容は43.2%に上る。
- 若年層は他の年代と比較して、広告により自身の考えが「変化した」「参考になった」の割合が高い。

Q6.先ほど「見たことがある」と答えたメディアについてお伺いします。その広告を見たことで、原子力発電や柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に対する、あなたの考えは変化しましたか。

性別
年代
性年代
地域



※地域×性年代はサンプル不足のため割愛 25

まとめ

■全体の傾向

広告認知 ・ 態度変容

▶全体

認知TOP3は「TVCM」「新聞広告」「WEBCM」。

また広告を見たことで再稼働に対する考えが変化したり、考えの参考にするなど、肯定的な態度変容は43.2%。

▶性別・年齢

ほとんどの媒体で女性に比べ、男性のほうが広告認知度が高い。男性15～34歳においては、「WEBCM」「ラジオ音声広告」「WEB音声広告」「交通広告」の認知度が他階層と比べて高い。

広告を見たことで再稼働に対する肯定的な態度変容は、15～34歳が特に高く、再稼働の考えのもとになった情報としてはインターネットが高い。

若年層においては交通広告やWEBなど、通学・通勤時に定常的に目にする機会の多かったり、使用頻度の高い媒体については、広告認知度が高かった。

再稼働に 対する意見

▶全体

「再稼働すべき」「規制許可と避難対応があれば容認」は49.6%、「規制許可と避難対応があっても容認できない」「再稼働すべきでない」は30.9%、「分からない、どちらでもない」は19.4%

賛成の理由は「エネルギー自給率の向上や電力の安定供給につながると思うから」「電気料金の抑制につながると思うから」、反対の理由は「事故が起きた場合に避難することは困難だと思うから」「いかなる安全対策をとろうが人間の想定では対応できず、事故が起きた場合の影響が大きいと思うから」が高い。

▶性別・年齢

男性、女性いずれとも、若年層は、「分からない・どちらでも良い」が他の年層と比較して高い一方、高齢層は「規制許可と避難対応があっても容認できない」、「再稼働すべきでない」が他の年層と比較して高い。

若年層は他の年代と比較して、広告により、自身の考えが、変化した、参考になったとの割合が高い。

若年層はインターネットからの情報を参考としやすいことから、若年層に対しては、WEB上でのコミュニケーションが効果的と考えられる。

今後に向けて の示唆

▶更なる若年層への広報施策

今回の事業において、出稿ボリュームとしては新聞広告が多かった。若年層に向けての施策として、接触頻度の高いWEB媒体や交通広告での出稿を多めにするなど、媒体ごとのボリュームを変えていくことも必要であると考えられる。

▶女性層への広報施策

新潟県内の住民であっても、男性に比べて女性の広告認知度が低いことが特徴的であった。

日常生活と紐づけたエネルギー課題の訴求など、女性でも興味関心が高まるようなテーマにて広告物を制作することで、よりアプローチ力を高められる可能性がある。

提示広告

THINK! ニッポンのエネルギー 01

暮らしは、電気で動いている。

気がつけば、私たちの身の回りのまわるところに電気で動くものが存在するようになりました。私たちの暮らしは、電気で支えられていると書いても過言ではありません。そんな電気はどこで、どのようにつくられているのでしょうか。

火力7割以上

電気は、発電所でつくられます。火力、太陽光、水力、風力、原子力などの種類があり、現在、日本の発電の7割以上は、化石燃料（石油・石炭・天然ガスなど）を燃やした熱でつくられる火力発電です。

海外依存約9割

火力発電はCO₂を排出するという課題があるうえに、そのほとんどを輸入に頼っている化石燃料を使用します。日本は自国の資源が乏しく、エネルギー資源の約9割を海外に依存している状況です。

自給率を高める

エネルギー資源を海外に依存していれば、国際情勢の影響を受けやすくなります。海外紛争などによってその輸入価格が急騰し、電気料金が高くなったり、電気が足りなくなったりする可能性があります。こうした事態を避けるには、できるだけ自給率を高めることが重要になります。

バランスよく組み合わせる

そして、安定した電力の供給を確保するためにも、火力発電のCO₂排出を減らす取組を進めながら、再生可能エネルギーや原子力発電といった自給率向上につながるクリーンなエネルギーを含めてバランスよく組み合わせることが大切だと考えます。

安定した電力の確保

だから私たちは、エネルギーを考える。

経済産業省 資源エネルギー庁 https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/outcast/001/event/nippon_001/

THINK! ニッポンのエネルギー 02

電気って、あたりまえ?

スイッチを入れると電気がつく。あたりまえのように使っている電気も、その裏側では絶えず電気がつくられています。でも、使う電気が足りなくなれば、どうなるのでしょうか?

大規模停電

2018年、北海道で地震が発生して大きな火力発電所が停止。直後ドミノのように水力や風力などの発電所も停止し、2日間に北海道全域が大規模停電に見舞われました。

太平洋側に火力が集中する 東日本のリスク

昨年、東日本では電力の供給に余裕がない状態が継続。2022年3月に最初の警報が出されました。数日前の福島沖地震で太平洋沿岸の火力発電がダウン。そのうえ、想定外の寒さで需要が増大し、悪天候で太陽光発電の出力が大幅に減少したためです。

需要>供給を回避する警報

需要が供給を上回ることによる大規模な停電を避けるため、政府は「電灯ひっ迫警報」を出して家庭や企業に節電を要請します。

発電所の分散と電力の支え合い

もし、東京沿岸や太平洋沿岸の大きな火力発電が地震で停止したら?異常な寒さや寒さで需要が増大したら?このようなリスクに対して、大きな出力の発電所が分散されれば、地域で支え合うことができます。これまでも東日本の中で電力の融通が行われており、今後、火力発電や再生可能エネルギー、原子力発電など、分散して立地している様々な発電所がその役割を果たしていくことが期待されます。

大停電のリスク回避

だから私たちは、エネルギーを考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各所で開催いたします

| | | | |
|---|--|---|---|
| 12/16(火)18:30 道の駅夕久(アヅマ)公民館 (中田町宮本町内の1丁目1-26) | 12/17(水)18:30 60年教育会館 (小千谷市土川1丁目1-3) | 12/18(木)18:30 軍場地立ふさふさセンター-富野公民館 (長岡市長野町2番地488) | 12/19(金)18:30 富野公民館 (長岡市幸町2丁目1-2) |
|---|--|---|---|

経済産業省 資源エネルギー庁 03-5501-1973 https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/outcast/001/event/nippon_002.html

THINK! ニッポンのエネルギー 03

最近の電気料金が高くなったのはどうして?

ここ数年、電気料金が全国的に高くなり、私たちの暮らしに大きな影響を与えています。最新の電気料金は、どうして高くなったのでしょうか?

火力への集中

2011年の東京電力福島第一原子力発電所の事故後、すべての原子力発電所が停止した結果、発電の7割以上が火力発電になりました。

燃料費の高騰

2022年には、ロシアのウクライナ侵襲により、欧州各国がロシア以外の国へ天然ガスを調達し、世界的に燃料費が高騰。火力発電が多く占める日本は、その高騰に加え、電気料金が全国的に2割程度上昇しました。

地域ごとの電気料金を見てみると...

国際的な燃料価格の高騰の影響が顕著に現れていた2023年度においては、エリアによっては約3割の価格差がありました。

| 地域 | 2021 | 2022 | 2023 | 2024 | 2025 | 2026 | 2027 | 2028 | 2029 | 2030 |
|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|
| 北海道 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 東北 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 関東 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 中部 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 関西 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 中国 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 四国 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |
| 九州 | 28.4 | 28.6 | 27.1 | 27.2 | 26.2 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 | 26.3 |

輸入総額約26兆円

さらには、昨今の円安によって燃料の輸入価格が上昇。その金額は、年間で26兆円(2023年度)。これは、自動車や機械などの輸出額とほぼ同じです。

過度な火力依存からの脱却

国際情勢による電気料金の高騰を回避し、エネルギーの安定供給と脱炭素を実現するためには、省エネに加え、再生可能エネルギーや原子力発電などを活用することにより、火力発電に頼りすぎない構造に変えていくことが大切だと考えます。

高騰する電気料金の抑制

だから私たちは、エネルギーを考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各所で開催いたします

| | | | |
|---|--|--|--|
| 12/17(水)18:30 開場 高市民交流センター (長岡市日之出町1-1) | 12/18(木)18:30 開場 八千代地区農村環境センター (三島町出雲町大字松橋472) | 12/21(日)18:30 開場 上郷市民会館 (上郷町土屋254) | 12/22(日)18:30 開場 朝日センター (朝日町中央区上野2丁目2-2) |
|---|--|--|--|

経済産業省 資源エネルギー庁 03-5501-1973 https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/outcast/001/event/nippon_003.html

THINK! ニッポンのエネルギー 04

AIが生み出す、電気の課題。

家電が最適な稼働をしたり、工場が自動制御されたり、バスが自動運行で走ったり。AIの発展によって社会が大きく進化しようとしています。一方でAIの発展は、「電気」の課題を生み出すことにもつながります。

生成AI市場の急成長

AIの中でも最も成長が見込まれるのが学習によってストーリーや画像、動画、音楽などのコンテンツを生み出す生成AIの分野です。その市場規模は、2023年には15兆(2023年比)になる見通しです。

電力需要増加の可能性

生成AIなどで行われるデータ処理は、ほぼすべての電子機器に組み込まれている半導体が担っており、特にデータセンターにおいて多くのデータ処理を行っています。データセンターの運用や半導体の製造には大量の電気を必要とするため、生成AI市場の拡大によって日本の電力需要の増加が見込まれます。

世界的な脱炭素ニーズ

一方、海外ではデータセンターの運用において再生可能エネルギーや原子力発電などの脱炭素電源を活用する動きがあり、脱炭素電源のニーズが世界的に高まっています。

日本の2050年

日本も、2020年に「カーボンニュートラルを目標とする」ことを宣言、地球温暖化を抑制するには宣言を守り、世界各国と協力し合うことが重要です。

電力需要への対応と脱炭素の両立

火力発電が約7割を占める日本では、電気使用の増加はCO₂排出の増加につながる可能性があります。増加が見込まれる電力需要への対応と脱炭素という課題を両立するためには、火力発電においてCO₂排出を減らす取組を進めながら、再生可能エネルギーや原子力発電といった脱炭素電源の活用を進めていくことが大切だと考えます。

増加が見込まれる電力需要への対応

だから私たちは、エネルギーを考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各地で開催いたします

| | | |
|--|---|---|
| 12/25(水)18時開始 富原市中央文化会館 (富原市中央2-1) | 12/27(金)18時開始 イタナシバ (新発田市湯田17-2-12) | 12/27(金)18時開始 糸川市市民会館 (糸川市第一中央17-2-1) |
|--|---|---|

お問い合わせ先 資源エネルギー庁 03-3501-1873

THINK! ニッポンのエネルギー 05

地球のために、電気を考えよう。

地球の気温は、産業革命以前と比較して約1℃上昇しており、向こう数十年の間に温室効果ガスの排出が大幅に減少しない限り、21世紀中に1.5℃～2℃以上上昇すると予測されています。実は、この地球温暖化の原因は、私たちの暮らしに欠かせない「電気」が関係しているんです。

地球温暖化の原因

地球温暖化の原因は、地表から出る熱を吸収して大気を暖める温室効果ガスの増加とされています。その代表が、CO₂(二酸化炭素)、火力発電による化石燃料の燃焼などでも排出されます。一方、CO₂は植物などの光合成によって吸収されますが、産業が発展した現代では、発生量が吸収量よりも多く、温室効果ガスが増えている状況です。

世界140カ国以上が宣言

カーボンニュートラル

そこで、世界140カ国以上が、世界の気温上昇を1.5℃までに抑えるべく、年限を決めてカーボンニュートラルの実行を宣言しました。

日本の2050年

日本も、2020年に「カーボンニュートラルを目標とする」ことを宣言、地球温暖化を抑制するには宣言を守り、世界各国と協力し合うことが重要です。

カーボンニュートラル

CO₂排出とCO₂吸収のバランスを±0にするのがカーボンニュートラルです。

脱炭素電源へのシフト

日本の発電は、CO₂の排出が多い火力が約7割です。脱炭素社会の実現に向け、再生可能エネルギーや原子力発電などの、脱炭素電源へシフトすることが大切だと考えます。

脱炭素社会の実現

だから私たちは、エネルギーを考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各地で開催いたします

| | | |
|---|---|---|
| 1/7(火)18:30開始 魚沼市福祉センター (魚沼市青田1144) | 1/8(水)18:30開始 湯沢市市民会館 (西湯沢部湯沢中央大学体育402) | 1/10(金)18:30開始 高田市市民会館 (高田市東山1丁目17) |
|---|---|---|

お問い合わせ先 資源エネルギー庁 03-3501-1873

THINK! ニッポンのエネルギー 06

放射線について、うかがいました。

2011年3月11日、東京電力福島第一原子力発電所の事故から13年が経過した今もなお、原子力や行政、事業者に対する不信・不安は払拭できていません。この状況を真摯に受け止め、原子力に関する客観的な情報を提供していくことが重要です。今回は、多くの不安の声が寄せられる、放射線について、福島県在住の医師・専門家である坪倉正治先生に、うかがいました。

Q. 放射線とはどのようなものなのでしょうか?
A. 目に見えないエネルギーの強い光のようなもの。

Q. 放射線はどこにあるのでしょうか?
A. 放射線は身の回りにあり、人は放射線を毎日浴びています。

Q. 福島第一原子力発電所事故では、放射線により、福島県ではどのような影響があったのでしょうか?
A. 平均被ばく量は、体への影響を危惧するレベルではありません。

Q. 放射線を浴びると体に影響があるのでしょうか?
A. 放射線の量と期間によって影響は異なります。

あのような事故を二度と起こさない。

福島第一原子力発電所の事故は、住民の方の生活や健康に大きな影響を与えてまいりました。今でも避難を余儀なくされている方がいます。あのような事故を二度と起こしてはならない。事故の教訓と深い反省がエネルギー政策の原点です。

これからの原子力発電を考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各地で開催いたします

| | | |
|--|---|--|
| 1/14(水)18:30開始 村上市生涯学習推進センター (村上市常盤町4-1) | 1/15(木)18:30開始 関川村市民会館 (岩船郡関川村大字上関1255) | 1/18(日)18:30開始 水原市民会館 (阿賀野市山崎町1丁目2-14) |
|--|---|--|

お問い合わせ先 資源エネルギー庁 03-3501-1873

広告

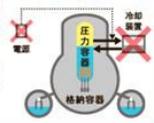
THINK!
ニッポンの
エネルギー
07

あの日のような事故を
二度と起こさない。

2011年3月11日、東京電力福島第一原子力発電所の事故で放射性物質が大気へ放出され、住民の方の生活や産業に大きな影響を与えてしまいました。今でも避難を余儀なくされている方がいます。あの日のような事故を二度と起こさないためには、事故の教訓と反省が、日本のエネルギー政策の原点です。

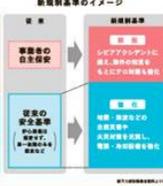
福島第一
原子力発電所 事故の原因

福島第一原子力発電所の事故は、地震で外部電源を損失し、さらに、津波により非常用を含めたすべての電源と冷却機能が失われ、蒸気によって原子炉が冷却できなくなったことが主な原因とされています。



事故の教訓と反省を踏まえた
安全対策強化

2012年、推進相局から独立した「原子力規制委員会」が設立されました。その後、福島第一原子力発電所の事故の教訓と反省を踏まえて、地震・津波等の自然現象の基準を強化し、万が一重大事故が発生した場合への対策を含めた新規規制基準が策定されました。この新規規制基準に適合しない限り、原子力発電所は再稼働できません。新しい知見が見つかれば許可が出ていても再評価されます。



安全神話との決別

そして、絶対安全という思い込み、いわゆる「安全神話に陥ってしまった」とも福島第一原子力発電所の事故の大きな反省点の一つです。こんなことが起きるわけがない、と考えるのではなく、もし、こんなことが起きたら、新しい知見をあげてはめらなければならない、という前提にたてて十分な対策を講じていくことが重要です。

安全性向上に向けた
不断の取組

福島第一原子力発電所の事故の教訓、反省を踏まえた新しい規制基準が作られました。原子力規制委員会が事故の結果、その基準を満たさなければ、原子力発電所は再稼働できません。そして、電力事業者は、規制を満たしたからそれで十分、と考えるのではなく、着んではいるリスクはないだろうか、と、安全性の向上に向けて、絶えず、取り組むことが大切です。

これからの
原子力発電を考える。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各所で開催いたします

| | | | |
|--|--|---|---|
| 1/21(水)18:30開始 新潟市公会堂 (北越後郡佐和田大字山1280) | 1/22(木)18:30開始 阿賀野市公会堂 (東蒲原郡阿賀野町藤原885-1) | 1/23(金)18:30開始 五泉市公会堂 (五泉市藤原1-22) | 1/24(土)18:30開始 新潟県庁後援 (新潟市中央区大町1-1) |
|--|--|---|---|

※以上の開催場所は、すべて新潟県庁後援の会場として行われます。各会場詳細は新潟県ホームページ「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」をご覧ください。また、各会場には「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」のパンフレットを配布いたします。お問い合わせ先は、新潟県エネルギー庁 総合窓口までお問い合わせください。

新潟県エネルギー庁 総合窓口 03-3501-1873
https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/event/nippon_ana/index.html

広告

THINK!
ニッポンの
エネルギー
09

万が一の際の原子力災害への対応

東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、日本の原子力発電所は、安全性の技術強化のため、何重もの安全対策を新たに講じています。その上で、万が一の際の原子力災害への対応についても福島第一原子力発電所の事故の教訓や国際基準を踏まえて、対策の強化を図るとともに、継続的に対策の改善・充実に取り組んでいます。今回は、原子力災害への対応について、よくいただく質問にお答えいたします。

Q. “私”はどう対応したらいいのでしょうか？

国連の放射線に関する科学委員会の報告において、福島第一原子力発電所の事故では、発電所内の従事者も含めて放射線による確定的な健康影響はみられないとされています。また、避難行動に伴い、生活環境の変化などにより体調が悪化するなど、間接的原因で亡くなった方もおられます。無意味な避難は高齢者や傷病者などに健康被害をもたらす可能性があることや、避難渋滞やパニックに伴う事故など、避難行動にもリスクが伴うという教訓を活かすことが重要です。原子力発電所から避難が求められることによって放射線による影響が減少することを踏まえ、お住まいのエリアに応じて、あらかじめ取るべき対策が決まっています。国や自治体からの情報や指示を基にした行動が必要になります。



- ▶原子力発電所から概ね5km圏にお住まいの方
原子力発電所の状態が悪化した際には、高い確率の被ばく影響を避けるため、放射性物質が放出される前から、あらかじめ定められている手順により予防的に避難します。
- ▶比較的距離の離れた概ね5km～30km圏にお住まいの方
被ばくリスクをできる限り低く抑え、圏外への避難に伴うリスクを避けるため、自宅や指定避難所において屋内退避を行います。万が一、放射性物質が放出され、放射線の量が一定基準を上回った地域は、あらかじめ定められている手順により一時移転を行います。家屋の倒壊など様々な理由により、自宅などで屋内退避が困難な場合には、近隣の指定避難所などで屋内退避を行い、さらに近隣の指定避難所などでの屋内退避が難しい場合には、圏外の避難先に避難することになります。さらに、状況に応じ、自衛隊や海上保安庁などの実動組織が住民避難を支援します。

Q. 自然災害と原子力災害が同時に起きたらどう対応するのでしょうか？

人命の安全確保が第一です。津波などの自然災害により人命へのリスクが高い場合には、その避難行動を優先し、自然災害に対する安全が確保された後に、原子力災害に対応します。また、地震などにより避難経路が通行できない場合に備え、あらかじめ複数の避難経路を設定するとともに、道路避難や空路避難など、状況に応じて対応します。さらに、自衛隊や海上保安庁などの実動組織が住民避難を支援するなど、住民の安全確保に政府が万全を尽くしていきます。

Q. 放射線の状況を知りたいときにどうしたらいいのでしょうか？

放射線の状況は多くの地点で継続的にモニタリングし、インターネットで公表します。また、モニタリングにより、各地域の放射線の量を確認し、一時移転が必要か否かなど、必要な対応を決定します。そして、防災行政無線、ラジオ、緊急通報メール、アプリなど、様々な広報手段を通じて確実にお知らせします。また、モニタリングの結果などを踏まえた国からの情報を基に、屋内退避中も生活物資の受け取りや屋根の雪下ろしなど、生活の維持に最低限必要な活動も実施できます。

「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各所で開催いたします

| | | | |
|---|--|--|--|
| 2/1(土)18:30開始 新潟市公会堂 (新潟県新潟市中央区大町1-1) | 2/5(水)18:30開始 津波町公民館(津波町文化センター) (中津川郡津波町大字下津波2306-2) | 2/6(木)18:30開始 新潟県庁後援 (新潟市中央区大町1-1) | 2/7(金)18:30開始 新潟県庁後援 (新潟市中央区大町1-1) |
|---|--|--|--|

※以上の開催場所は、すべて新潟県庁後援の会場として行われます。各会場詳細は新潟県ホームページ「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」をご覧ください。また、各会場には「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」のパンフレットを配布いたします。お問い合わせ先は、新潟県エネルギー庁 総合窓口までお問い合わせください。

新潟県エネルギー庁 総合窓口 03-3501-1873
https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/event/nippon_ana/index.html

広告

THINK!
ニッポンの
エネルギー
08

原子力発電所の安全対策

東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、日本の原子力発電所は、安全性の技術強化のため、何重もの安全対策を新たに講じています。今回は、原子力発電所の対策や、取組に対する海外の専門家による評価を紹介します。



様々な事態を想定して
多重に備える

事故の教訓を踏まえ、極めて厳しい自然災害を想定し、地震・津波等の想定外に及ぶ非常用電源の強化などの対策を実施しています。

様々な事態を想定して
多様に備える

また、追加的な電源車の配備や、移動可能な冷却設備を追加するなど、福島第一原子力発電所の事故以前よりも安全対策設備を多様化しています。

事態が収束しない
場合にも備える

それでも放射性物質の放出が必要という高度な事態を想定し、放出口に新たに、原子炉の格納容器内の圧力を下げ、放射性物質を押し詰める機能を維持するためのフィルタベント設備を設置しています。

外部の目も取り入れて、安全性の向上に向けて取り組む

こうした事業者個々の安全対策に加え、IAEA(国際原子力機関)による客観的な評価など、「外部の目」も取り入れる取組も行っています。さらなる安全性向上に向けて、このような取組を継続して行うことが重要です。

柏崎刈羽原子力発電所

柏崎刈羽原子力発電所については、2024年4月の事故後、新技術導入システムの稼働の分野で歴史的な改善が確認されました。また、さらなる安全向上に向けて、社内チームの連携や安全対策の運用等について改善を受けました。

東浜発電所

東浜発電所3号機については、2024年4月の事故で、プラントがレベル1-2段階に到達し、安全な長期運転に向けて取り組むすべての困難を克服する取り組みを評価しました。



「日本のエネルギー情勢と柏崎刈羽原子力発電所に係る説明会」を新潟県内の市町村各所で開催いたします

| | | |
|--|---|---|
| 1/28(水)18:30開始 新潟市公会堂 新潟県新潟市中央区大町1-1 | 1/29(木)18:30開始 加茂市産業センター 加茂市町丁2-1 | 1/31(土)18:30開始 新潟県庁後援 新潟市中央区大町1-1 |
|--|---|---|

※以上の開催場所は、すべて新潟県庁後援の会場として行われます。各会場詳細は新潟県ホームページ「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」をご覧ください。また、各会場には「柏崎刈羽原子力発電所に関する説明会」のパンフレットを配布いたします。お問い合わせ先は、新潟県エネルギー庁 総合窓口までお問い合わせください。

新潟県エネルギー庁 総合窓口 03-3501-1873
https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/event/nippon_ana/index.html

広告

THINK! ニッポノ エネルギー 10

主なご意見についてお答えします

今回は、資源エネルギー庁の説明会などで
いただく主なご懸念のうち、これまで計9回の連載の中で、
触れられていない部分について、
国としての考えをご紹介します。
これからも私たちの生活や経済を支える
「ニッポンのエネルギー」について、考えていきましょう。



Q. 東京電力福島第一原子力発電所の事故があったのに、なぜ、原子力を活用するのか?

A. 福島第一原子力発電所の事故への真摯な反省は、決して忘れてはならない原子力政策の原点であり、原子力の活用にあたっては、安全性の確保が大前提です。原子力規制委員会が、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえて規定された新規制基準に基づいて厳格な審査を行い、基準に適合すると判断しなければ、運転は認められません。「安全神話に陥らない」との福島第一原子力発電所の事故の教訓を肝に銘じ、政府や事業者、産業界は安全性向上に向けて不断に取り組みることが重要です。一方で、エネルギー自給率が低く火力発電に電力供給の約7割を依存する日本の事情を考えれば、エネルギー安定供給と脱炭素を両立する観点から、化石エネルギーへの過度な依存からの脱却を目指し、再生可能エネルギー、原子力などエネルギー安全確保に寄与し、脱炭素効果の高い電源を最大限活用することが必要不可欠と考えています。

Q. 原子力発電ではなく、再生可能エネルギーを活用すべきでは?

A. エネルギーは国民生活や経済活動の基盤であり、エネルギー安定供給の確保が不可欠です。同時に、日本では2050年カーボンニュートラル実現という野心的な国際公約を掲げており、脱炭素に向けた取組も進めていく必要があります。このため、あらゆる選択肢を活用しながら、安定供給と脱炭素を両立する観点から、バランスのとれた電源構成を目指していくことが政府の基本方針です。また今後、DXやGXの進展による電力需要の増加も見込まれており、それに見合った脱炭素電源を十分確保できるかが我が国の経済成長や産業競争力を左右する状況にあります。こうした中で、再生可能エネルギーが原子力かといった二項対立的な議論ではなく、脱炭素電源である再生可能エネルギーと原子力をともに最大限活用していくことが極めて重要です。

Q. 原子力災害によって、資産や仕事を失った場合の補償はどうなるのか?

A. 原子力災害においては、原子力損害賠償法の規定に基づき、原則、原子力事業者が賠償責任を負い賠償いたします。また、賠償額が巨額となっても、原子力事業者が賠償の責任を貫徹し、被害に遭われた方への補償が適切になされるよう、原子力損害賠償・廃炉等支援機構法を活用するなど、万が一の場合においても、国として、責任を持って対応します。

Q. 使用済燃料や放射性廃棄物が課題解決していないのに原子力を活用すべきではないのでは?

A. 原子力を安定的に利用するため、使用済燃料の再処理をはじめとする核燃料サイクル、高レベル放射性廃棄物の最終処分といったバックエンドへの対応は重要な課題です。核燃料サイクルの中核である六ヶ所再処理工場については、安全性向上に向けた審査や工事が進められており、早期しゅん工に向けて、産業界と国が一体となって、必要な人材の確保などに責任を持って取り組んでいきます。高レベル放射性廃棄物の最終処分については、北海道の寿都町・神原内村及び佐賀県玄海町の全国3地点で、処分地選定プロセスの第一段階である文献調査を実施するなど、一歩ずつではありますが前に進んできています。特に、北海道2地点については文献調査の報告書が取りまとめられ、説明会を実施中です。引き続き、最終処分について、国が前面に立って取り組みます。

これからの
エネルギーを考える。



お問い合わせ
03-3501-1873

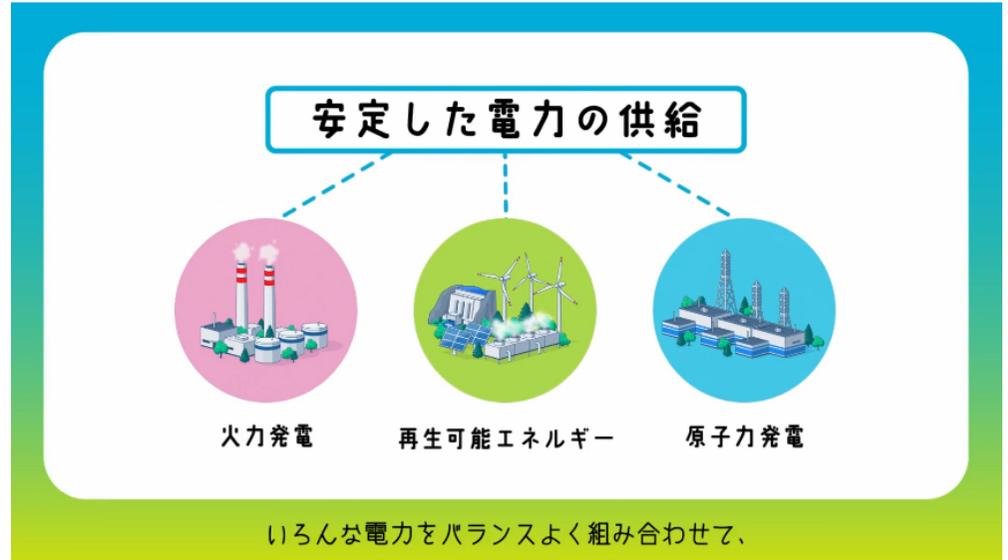
詳細は、以下URLまたは「ニッポンのエネルギー」で検索
http://www.enecho.met.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/event/hippon_esa/index.html



■TV 12/6~1/26 ・ WEB 11/26~1/31



エネルギー資源のおよそ8割を、海外に頼る日本だから。



いろんな電力をバランスよく組み合わせ、



地球の将来のために、大切だと考えます。

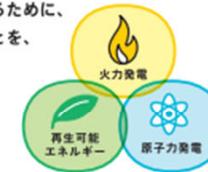


電気のある暮らしを守るために

だから私たちは、
エネルギーを考える。

安定した電力の供給を確保するためにも、
火力発電のCO₂排出を減らす取組を進めながら、
再生可能エネルギーや原子力発電といった
自給率向上につながるクリーンなエネルギーを含めて
バランスよく組み合わせることが大切です。

電気のある暮らしを守るために、
日本のエネルギーのことを、
一緒に考えませんか。



経済産業省
資源エネルギー庁

https://www.enecho.meti.go.jp/category/electricity_and_gas/nuclear/001/event/nippon_ene/